

# イエス・キリストを知る

ヨハネの福音書の学び

## 目次

- 第1章 イエスは誰ですか？（ヨハネ 1：1-18）
- 第2章 あなたは何を求めていますか？（ヨハネ 1：19-51）
- 第3章 あなたの主人は誰ですか？（ヨハネ 2 章）
- 第4章 どうすれば天国に入れますか？（ヨハネ 3 章）
- 第5章 どうやって礼拝しますか？（ヨハネ 4 章）
- 第6章 どうすればいのちに移ることができますか？（ヨハネ 5 章）
- 第7章 なぜイエスを信じますか？（ヨハネ 6 章）
- 第8章 イエスをどう見ますか？（ヨハネ 7 章）
- 第9章 わたしもあなたを罪に定めない（ヨハネ 8：1-11）
- 第10章 何があなたを自由にしますか？（ヨハネ 8：12-59）
- 第11章 霊の目が見えるために（ヨハネ 9 章）
- 第12章 牧者と羊の関係（ヨハネ 10 章）
- 第13章 誰が神の栄光を見ますか？（ヨハネ 11 章）
- 第14章 どんな人が豊かな実を結びますか？（ヨハネ 12 章）
- 第15章 どうやって愛しますか？（ヨハネ 13 章）
- 第16章 心を騒がせてはなりません（ヨハネ 14 章）
- 第17章 愛の関係（ヨハネ 15 章）
- 第18章 御霊によって勝利した（ヨハネ 16 章）
- 第19章 一つにしてください（ヨハネ 17 章）
- 第20章 何のために生まれましたか？（ヨハネ 18 章）
- 第21章 イエスはなぜ死んだのですか？（ヨハネ 19 章）
- 第22章 イエスはなぜ復活しましたか？（ヨハネ 20 章）
- 第23章 霊的回復（ヨハネ 21 章）

## この本の使い方

この本は、イエス・キリストをまだ信じていない人が、教えて導いてくれる人と一緒に聖書を学ぶために作られました。もちろん、すでに信じているけどクリスチャン生活についてもう一度学びたい人のためにも、使うことができます。1対1で学んだり、家庭集会や小グループで学んだりするときにも使うことができます。学ぶ人は、この本の「書き込み用教材」と聖書（この教材では、「新改訳 2017」を引用しています）、そして筆記用具を準備して下さい。学んだことや感じたことを、その場ですぐに書き込んでおくと、後で読み返したときに、よく思い出すことができます。

導く人は、まずこの本の「教師用ガイド」を持って、その日に学ぶ章のタイトルと聖書箇所を言います。そしてその箇所（例えば、第1章であれば、ヨハネ1:1-18全部）を、参加者全員で声を出して読みます。1節ずつ輪読したり、導く人と参加者が1節ずつ交読したりしても良いです。これは、聖書の物語全体の流れを把握するために必要なもので、読む量が長くて大変でも、省略しないようにして下さい。その後、導く人は質問を読み、その下に書いてある聖書箇所を、誰か1人に読んでもらうように指名します。その人が読んだ後、導く人は再び質問をその読んで、誰かにその答えを言ってもらいます。いつも同じ人ばかりが答えるのではなく、「他の人はどうですか?」と言って、みんなに発言を促して下さい。導く人はあまり話しすぎないで、参加者みんなが積極的に答えて、自由に話し合いができるような雰囲気を作って下さい。話しがまとまってきた後で、導く人は、教師用ガイドの「解説」の所を読みます。もちろん、これは参考なので、導く人が短く自由にまとめても良いです。その後、次の質問に移ります。各章の最後の質問は「まとめと適用」の質問です。参加者全員が一人ずつ発言して、自分の生活に具体的に適用して、実際に決心できるように導いて下さい。そして、祈りを持って学びを終わります。

この本は、学ぶ人が自分で聖書の中から答えを見つけることができるように作られています。自分から聖書を開いて「みことばは何と言っているか」を探す習慣がつくと、それが神の御声を聞く訓練になります。みことばを読んでその意味をよく考えて、それを自分の実際の生活に適用し、みことばを実践していくとき、その人は霊的に成長していきます。自分自身で見つけた答えというのは、後になっても忘れません。また、他の参加者の答えを聞くときに、以前から知っていた聖書箇所も新しく感じるものです。

導く人は、この本を使って、未信者がイエス・キリストを信じるように助けることができます。質問はそれほど難しくなく、その聖書箇所をよく読んで考えれば、誰でも簡単に答えられます。なので、聖書知識をたくさん持っていない人でも、すぐに導くことができます。そして、導く人は、自分自身が一番学び、成長できます。みことばを教えることによって、たましいの救いのために仕える喜びを体験するようになります。

この本を使う人がみな、神のみことばによって共に成長していく祝福を味わいますように、主の御名によって祈ります。

2026年3月9日

伊藤 仁

# 第1章

## イエスは誰ですか？（ヨハネ1：1-18）

### 1、「ことば」とは、誰のことですか？

（ヨハネ1：1-2、引用は全て新改訳2017）初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。

（解説）「ことば」とは、イエス・キリストのことです。イエス・キリストは、父なる神様のひとり子です。そのひとり子なるイエス様は、初めからおられる方、つまり永遠に存在しておられる方です。天地万物を創造される以前から、父なる神様と共におられた方です。この「ことば」であるイエス様は、神であられる方です。だから、イエス様をただの普通の人間だと考えてはいけません。ただの教祖、宗教指導者、偉大な教師なのではありません。彼はまことなる神なのです。

### 2、この方（イエス）は、どんな方ですか？

（ヨハネ1：3-5）すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもなかった。この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。光は闇の中に輝いている。闇はこれに打ち勝たなかった。

（解説）イエス様は全てのものを造られた方です。父なる神様と共に、この宇宙全体を創造された方です。父なる神様が「光、あれ」と仰せられると、光ができました。その仰せ、ご命令、みことばが、御子なるイエス様なのです。この方、イエス様に永遠のいのちがあります。このイエス様は人の光です。イエス様の光は闇（サタンの力）に打ち勝ちます。真っ暗な部屋で小さな火をともしると、闇の中で輝いて、部屋全体を明るく照らします。そのように、たとえあなたの心の中に暗闇の力、サタンの支配があっても、イエス様があなたの心に入ると、心の中全体を照らして、サタンに勝利して下さるのです。

### 3、バプテスマのヨハネは、何のために来ましたか？

（ヨハネ1：6-7）神から遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネであった。この人は証しのために来た。光について証しするためであり、彼によってすべての人が信じるためであった。

（解説）このヨハネは「バプテスマのヨハネ」と呼ばれています。ヨハネの福音書を書いた使徒ヨハネとは別の人です。このバプテスマのヨハネは、光であるイエス・キリストについて証しするために来ました。全ての人がこのヨハネによってイエス様を信じるために、ヨハネは世に来たのです。この目的のために、ヨハネは神から遣わされたのです。ヨハネは自分の人生の目的をはっきり知っていました。彼は神か

ら遣わされた者、神の御国の大使でした。彼はイエス様を証しするために、この世に生まれて来たのです。……あなたは何のために、この世に来ましたか？あなたは自分の人生の目的をはっきり知っていますか？あなたもヨハネのように、光であるイエス様を証しするために、あなたによって人々がイエス様を信じるように、神があなたを世に遣わしたのです。

#### 4、イエスを受け入れた人々には、どんな特権が与えられますか？

(ヨハネ 1 : 12) しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

(解説) イエス様を受け入れた人は、神の子どもとなる特権を与えられます。その特権は、とても大きな特権です。以前はサタンの子だったので、罪と死とのろいの奴隷でした。でもイエス様を信じて受け入れてからは、この全世界の王である神の子ども、王子王女となったのです。つまり階級が全く変わってしまったのです。父が持っている物全ては、その子どもが所有しているのと同じです。父の権威がそのまま子どもの権威となります。父なる神様は、いつも私たちの祈りに耳を傾けてくれます。子どもである私たちのために、いつも責任を持って養って下さいます。赤ちゃんのときは、自分に王子王女の特権があるということを知りません。でも成長して大きくなってくると、その特権を知って使えるようになってきます。……あなたは神の子どもとしての特権がどんなに大きいものか、知っていますか？その特権を使っていますか？もし特権を持っているのに使わなかったら、何ともったいないことでしょう！王子王女として王宮に住んでいながら、こじきのように生活してはいけません。神の王子王女らしく、堂々と生きていきましょう。

#### 5、神の子どもとなる人々は、どのように生まれますか？

(ヨハネ 1 : 13) この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

(解説) 神の子どもとなる、クリスチャンになるということは、血によって生まれるものではありません。例えば、自分の親がクリスチャンだから自分もクリスチャンである、というものではありません。肉の望むところによってでもありません。例えば、クリスチャンになったらお金がもらえる、仕事を得る、社会的に利益がある、などと思ってクリスチャンになるものではありません。また人の意志によってでもありません。例えば、良い行い、努力、教会の礼拝に参加することなどによってクリスチャンになるものではありません。クリスチャンとは、神によって生まれるものです。イエス・キリストを信じて受け入れることによってのみ、新しく生まれることができるのです。

#### 6、イエスはどのようにして、私たちの間に住まわれましたか？

(ヨハネ 1 : 14) ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみ

もとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

(解説)「ことば」である神のひとり子は、人となって私たちの間に住まわれました。今から約2千年前に、人間となってこの世に下って来たのです。その方こそが、イエス・キリストです。神である方が、人間の一人となって、この世に生まれて来たのです。人間は神となることはできません。しかし、神は人間となることができます。だからイエス様は、100%神でありながら100%人間なのです。罪人である人間を救うために、天の御座を捨てて、自ら人間となって、この世に来られました。だからイエス様は恵みとまことに満ちておられる方なのです。

## 7、どうすれば神を知ることができますか？

(ヨハネ1:18) いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

(ヨハネ17:3) 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

(解説) 今だかつて、神を見た者はいません。ではどうしたら、神を知ることができるのでしょうか？父なる神のふところにおられるひとり子の神、イエス・キリストが、神を説き明かされたのです。だからイエス様を知るなら、神を知ることができます。イエス様を信じるなら、神様と出会えるのです。永遠のいのちとは、イエス・キリストを知ることです。みことばを通してイエス様が誰なのかをもっと深く知るならば、神様ともっと親しくなることができます。神様への信仰ももっと成長します。キリストの似姿へとさらに変えられていきます。神様のすばらしさをもっと深く体験するようになります。イエス様を知る、ということは、人生の最後まで成長し続けて、天国に着いたときに、主を完全に知ることになります。この道のを「救い」というのです。イエス様を信じた後も、救いとは何かをさらに深く知っていくのです。だから私たちは、このイエス様をもっと知って、救いをもっと体験していきましょう。

## 8、あなたにとって、イエスはどんな方ですか？

(解説) 最後の質問は、適用の質問です。参加者一人一人に聞いて、今日の聖書のことばが今の自分の生活にどんな意味があるのか、具体的に考えるように導いて下さい。

## 第2章

### あなたは何を求めていますか？（ヨハネ1：19-51）

#### 1、 ヨハネは、なぜバプテスマ（洗礼）を授けていましたか？

（ヨハネ1：31）私自身もこの方を知りませんでした。しかし、私が来て水でバプテスマを授けているのは、この方がイスラエルに明らかにされるためです。」

（解説）イエス様がイスラエルに「明らかに」されるために、ヨハネは水で洗礼を授けていました。私たちはどうして洗礼を受けるのでしょうか？それは、イエス様が自分にとってどんな方なのかを、人々の前で明らかに示すためです。洗礼を受けることによって、イエス様が自分の救い主、人生の主人であることを、神と人の前ではっきり告白し、宣言するのです。ですから、もしあなたがイエス様を信じたのなら、当然洗礼を受けるべきです。もし「イエス様を信じたけど、洗礼は受けたくない」と言うのなら、それは、本当は心の中ではまだ信じていないのか、もしくは、洗礼について良く分かっていないのか、どちらかです。花婿なるイエス様と結婚したのに、結婚式はしたくないと言ったら、イエス様はどう感じるのでしょうか？あなたはイエス様を主人としましたか？それなら、早く洗礼を受けて、それを明らかにして下さい。

#### 2、 2人の弟子はイエスに何を求めていましたか？

（ヨハネ1：35-39）その翌日、ヨハネは再び二人の弟子とともに立っていた。そしてイエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。二人の弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て言われた。「あなたがたは何を求めているのですか。」彼らは言った。「ラビ（訳すと、先生）、どこにお泊りですか。」イエスは彼らに言われた。「来なさい。そうすれば分かります。」そこで、彼らはついて行って、イエスが泊まっておられるところを見た。そしてその日、イエスのもとにとどまった。時はおよそ第十の時であった。

（解説）2人の弟子がイエスについて来るのを見て、イエスは「あなたがたは何を求めているのですか？」と尋ねました。それに対して、彼らは「先生、どこにお泊りですか？」と答えました。彼らは、イエスがどんな方なのか、知りたかったのです。その方が本当に、自分のずっと探し求めていたメシア、救い主なのか、確かめたかったのです。それで、イエスの泊まっておられる所を見て、その日イエスと一緒に泊まりました。彼らは多分一晩中イエスと語り合い、交わり、共に食べ、共に寝たのでしょう。それで、イエスがどんな方なのか、その人格を、もっと深く理解したでしょう。そして主と親しくなり、もっと主と近い関係となったでしょう。「主を知ること」こそが、彼らの求めていることだったので。私たちは主に、何を求めているのでしょうか。祝福？お金？成功？問題解決？もちろん、それらのことも大切でしょう。しかしそれよりも、私たちはもっと深く個人的に主を知ること、追い求めて

いきましょう。

### 3、 アンデレはなぜシモン・ペテロをイエスのもとに連れて来ましたか？

(ヨハネ 1 : 41-42) 彼はまず自分の兄弟シモンを見つけて、「私たちはメシア（訳すと、キリスト）に会った」と言った。彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンを見つめて言われた。「あなたはヨハネの子シモンです。あなたはケファ（言い換えれば、ペテロ）と呼ばれます。」

(解説) 2人の弟子のうち一人は、アンデレでした。アンデレは、自分がずっと探し求めていたメシアとやっと出会えたこの喜びを、誰かに話さずにはられませんでした。そしてアンデレは、自分の兄弟のシモンも以前からメシアを求めていたことを、よく知っていたことでしょう。それでアンデレは「このことを彼にも教えてあげよう！」と、家に帰ってすぐにシモンに「私たちはメシアに出会った」と言ったのです。それだけではありません。彼はシモンをイエスのもとに連れて行ったのです。……これこそが伝道です。伝道とは、アンデレのように「人々をイエスのもとに連れて行くこと」です。このシモンが、ペテロとなって、後に初代教会の指導者となったのです。あなたが伝道した人が、ずっと後になって、ペテロのような教会指導者となります。信じますか？そう信じて、私たちは人々をイエスのもとに連れて行きましょう。

### 4、 イエスはピリポをどうやって呼びましたか？

(ヨハネ 1 : 43) その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つけて、「わたしに従って来なさい」と言われた。

(解説) イエスはピリポを見つけて「わたしに従って来なさい」と言いました。この「召し」に対して、ピリポはすぐに応答し、決断して、イエスについて行き、弟子となりました。召しには、答えが必要です。主に従い、主の弟子となるには、決断が必要なのです。主は今、あなたに対しても「わたしに従って来なさい」と呼んで、召しておられます。あなたは主に対して、どう答えますか？

### 5、 イエスはどのようにしてナタナエルを知っていましたか？

(ヨハネ 1 : 47-49) イエスはナタナエルが自分の方に来るのを見て、彼について言われた。「見なさい。まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません。」ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか。」イエスは答えられた。「ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見ました。」ナタナエルは答えた。「先生、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」

(解説) イエスは、ピリポがナタナエルを呼ぶ前から、ナタナエルがいちじくの木の下にいるのを見ていました。そして彼の性格も、彼がメシアを求めて祈っていたことも事前に全て知っていたので、彼を

見て「まさにイスラエル人です。この人には偽りがありません」と言いました。イエスは全知全能の主ですから、ナタナエルを召す前から、彼のことを全部知っていて、その上で彼を召したのです。主はあなたのことを全てご存知です。あなたを召す前から、あなたのことをずっと見ておられ、あなたの性格や弱点、願いまでも全部知っておられます。その上で、あなたをこの弟子の道に召しておられるのです。あなたがどんな人か知らないで召したのではありません。だから、主の召しを受けても、驚いたり「私みたいな者にはできない」などと言いつつしないで、安心して素直に従ってください。

## 6、 イエスに従う者は何を見ることになりますか？

(ヨハネ1:50-51) イエスは答えられた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったから信じるのですか。それよりも大きなことを、あなたは見るようになります。」そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。」

(解説) イエスはナタナエルに「あなたはもっと大きなことを見る。天が開けて、御使いたちがイエスの上を上り下りするのを見ることになる」と言いました。私たちは「イエスの弟子となっても、何の得があるだろうか」と思うかもしれません。イエスについて行ったら、何か仕事を得られる？ 名誉を得られる？ 成功？ お金？ ……いいえ、あなたが今考えているよりも、想像をはるかに超えた、もっとずっと大きなことを見ることになります。天が開けて、霊の目が開かれて、イエスが誰なのかを知り、天国の秘密を知るようになるでしょう。そうするとき、あなたの地上での生き方は、完全に変わってしまうでしょう。あなたは何を求めていますか？ 何を期待して、主に従いますか？ 主ご自身を知ることが求めています。この主の召しに応え、弟子となって主の道に従うと決断しなさい。そうするとき、あなたは天国の栄光を見ることになるでしょう。

## 7、 あなたはイエスに何を求めますか？

## 第3章

### あなたの主人は誰ですか？（ヨハネ2章）

#### 1、 ぶどう酒がなくなったとき、イエスの母はなぜ、イエスに向かってそれを言ったのですか？

（ヨハネ2：3）ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

（解説）婚礼でぶどう酒がなくなったとき、普通だったら宴会の世話役にその事を言うものです。しかしイエスの母マリアは、世話役にではなく、ただの客の一人であるイエスに、その事を言ったのです。なぜでしょうか？マリアは「イエスが誰なのか」を良く知っていました。イエスは聖霊によって身ごもって生まれた神の御子、世の救い主、全能なる方、どんな問題でも解決できる方である、と知って信じていたのです。だから他の人ではなく、イエスを頼ったのです。あなたは問題にぶつかったとき、誰に頼りますか？人ですか？それとも主なる神ですか？「主イエスが誰なのか」を良く知っているなら、人よりも主を頼るようになります。

#### 2、 給仕の者たちは、イエスの命令に対して、どのように従いましたか？

（ヨハネ2：5）母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

（ヨハネ2：7）イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいになさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

（解説）マリアは給仕の者たちに「あの方が言われることを何でもしてあげてください」と言いました。その言葉によって、イエスは客ではなく「主人」となりました。客というのは、もてなしは受けるけど、その家の主人の許可がなければ、何もできません。でも主人はその家の中で、自分の思うとおりにすることができます。イエスはその家で客の一人であったときには、何もしませんでした。しかし「主人」となったときから、命令を出したのです。イエスが「水がめを水でいっぱいになさい」と言ったとき、給仕の者たちは、言われた通りに従順しました。「ぶどう酒がないというのに、なぜ水を満たすのか？」とか「彼は世話役でもないのに、なぜ彼の言うことを聞かなければならないのか？」とか「約100リットルの水がめを6つもいっぱいにするなんて、大変だ」などと不平不満を言いませんでした。自分の考え、自分の方法ではなく、命令されたとおりに100%従順して、水がめを縁までいっぱいにしたのです。「99%の従順は、100%の不従順と同じ」です。私たちは100%、完全に、最後まで、縁いっぱいまで従順する者となりましょう。

#### 3、 水がぶどう酒になったことを、誰が知っていましたか？

（ヨハネ2：9）イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところを持って行きな

さい。」彼らは持って行った。

(解説) 宴会の世話役は、そのぶどう酒がどこから来たのか、知りませんでした。しかし水を汲んだ給仕の者たちは知っていました。世の中の人たちは、イエスを信じるのがどんなに祝福なのかを、全く知りません。しかし、イエス様を信じて主に仕える者だけが、その祝福を知ることができます。主イエスのためにしもべとなって仕えることは、ときには困難なときもあるでしょう。しかし、信仰によって主に従順する者は、人生で大きな奇跡を体験することができるのです。

#### 4、 良いぶどう酒は、いつ出されましたか？

(ヨハネ 2 : 10) こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

(解説) 良いぶどう酒は、後で来ました。主は良いものを、後で下さいます。サタンは逆に、まず最初に良いと見えるものを与えます。例えばお金、財産、名誉、世の快樂など……。しかしその後で、そのものによって人を墮落させます。飴のように、最初は甘いけど、後で虫歯になって歯が痛くなります。主が下さるものは、薬のようです。最初は苦いけど、後で病気が治ります。クリスチャン生活は、最初は難しいと思えるかもしれません。しかし後になって、多くの良いものを受け取ります。だんだん良くなって、最後に一番良いもの、天国を相続するのです。私たちにとって「一番良いもの」は、まだ来ていません。私たちは今の所でとどまっているのではなく、これから将来来るであろう多くの祝福を期待しながら、さらに霊的に成長し、未来に向かって前進していきましょう。

#### 5、 イエスはこのしるし(奇跡)を、なぜ行いましたか？

(ヨハネ 2 : 11) イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

(解説) イエス様はこの奇跡を、世話役の必要のためや、花婿の満足のために見せたわけではありません。主ご自身の栄光を現すため、それによって弟子たちがイエス様を信じるために、奇跡を起こしたのです。主は今日でも奇跡を行うことができます。しかし、私たちの自己中心的な願いを満足させるために、奇跡を行うではありません。その奇跡によって主の栄光を現して、私たちがもっとイエス様を信じて拠り頼む者となるように、それを行うのです。それによって私たちが主イエスのすばらしさをさらに体験して、主をさらに愛する者となるように、主にさらに従う者となること、それが主の奇跡の目的です。イエス様は私たちのしもべではありません。イエス様を自分の満足のために使おうと思っはなりません。またイエス様は私たちの客でもありません。たとえイエス様を信じて心に受け入れても、主人ではなくて客だったら、人生に何の変化も起こりません。イエス様をあなたの主人としなさい。あなたがイエス様のしもべとなりなさい。あなたの人生の全てを主イエスにささげなさい。そのときにこそ、あなたは奇跡を体験します。水がぶどう酒に変わったように、あなたの人生は全く変わります。あなたが神を使うので

はなく、神があなたを使うようになるのです。神はあなたを通して、ご自身の栄光を現して下さいます。

## 6、 イエスはあなたのお客ですか？手伝い人ですか？それとも主人ですか？

# 第4章

## どうすれば天国に入れますか？（ヨハネ3章）

### 1、 ニコデモは、イエスのことを本当に知っていましたか？

（ヨハネ3：1-2）さて、パリサイ人の一人で、ニコデモという名の人があった。ユダヤ人の議員であった。この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられなければ、あなたがなさっているこのようなしるしは、だれも行ふことができません。」

（解説）ニコデモはパリサイ人で、ユダヤ人の議員、教師でした。神や聖書について良く知っている人でした。なので、イエスが誰であるかについても「知っています」と言いました。しかし、彼は実際には何も知りませんでした。神の国に入れる確信もありませんでした。律法をちゃんと守っていましたが、心に平安がありませんでした。宗教指導者でしたが、真理を悟ってはいませんでした。だからこそ、イエス様のところに来たのです。ただし、他の人に知られると恥ずかしいので、人の目を避けて、夜の時間に来ました。「私は知っている」という傲慢な心を捨てて、「私はまだ何もわかっていません。どうか教えて下さい」という謙遜な心でイエス様のところに来る人は、祝福されます。

### 2、 「新しく生まれる」とは何ですか？

（ヨハネ3：3-8）イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモはイエスに言った。「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることなどできるでしょうか。」イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

(ローマ 8 : 9) しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちではなく、御霊のうちにいるのです。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。

(解説) 人は、もう一度母の胎に入って生まれることはできません。肉によって生まれた者は、御霊のことを理解できません。しかし、イエスを信じて受け入れた人の中には「キリストの御霊」が内住します。この聖霊を体験するとき、新しい人となり、人生が変えられるのです。この体験を「新しく生まれる」と言っているのです。風は目に見えないし、どこから来てどこへ行くのか分かりません。でも、風は確かに存在するし、その音も聞こえます。そのように、御霊によって生まれる者、聖霊を体験した人も、その人自身がはっきりとわかります。イエスを信じて変えられるスタイルは、人によってみんな違います。ある人は劇的に、またある人は静かにゆっくりと感じます。でも、生きておられる主イエスの愛を感じて、人生が変えられた体験は、確かにあるのです。救いの確信を持って喜びにあふれた体験がそれです。そのように、新しく生まれた人は、神の国を見ることができるようです。

### 3、 天上のことは、誰が話すことができますか？

(ヨハネ 3 : 11-13) まことに、まことに、あなたに言います。わたしたちは知っていることを話し、見たことを証ししているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるのでしょうか。だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。

(解説) 天に上ったことがある人は誰もいません。天上のことは、天から下って来た人の子、イエス・キリストだけが話すことができます。世の中の色々な宗教はみんな、人間の空想、人間の考え出した作り話、人間の頭から出てきた思想にすぎません。しかしイエス・キリストは、天上で自分自身が見たことを証ししているのです。だからこそ、その証しは真理だと言えるのです。

### 4、 「人の子も上げられなければならない」とは、何の意味ですか？

(ヨハネ 3 : 14-15) モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。」

(民数記 21 : 9) モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上に付けた。蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。

(解説) この話は、旧約聖書の民数記の中に書いてある実話です。ニコデモは旧約聖書を良く知っているので、イエス様はその聖書の話をとえとして使って、説明したのです。モーセの時代、イスラエルの民は荒野で蛇にかまれて、多くの人々が死にました。そのとき神はモーセに、青銅の蛇を作らせ、それを旗ざおの上に付けさせました。蛇にかまれた人がその青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きることができました。自分の方法、努力によって薬で治療しようとした人は、何の効果もなく死にました。救いも、それと同じよ

うなものです。十字架の上につけられて死なれたイエスを仰ぎ見る者は、生きるのです。たましいの救いを得るために、自分なりの方法、良い行いでどんなに努力しても、全く効果がありません。必要なことはただ一つ、イエスを信仰によって仰ぎ見ること、それだけです。他に何もありません。難しいことも、複雑なこともありません。本当に簡単で、単純なこと、誰でもできることです。難しい方法だったら、誰も救いを得ることはできなかつたでしょう。しかし神は私たちが救われるために、誰にでもできる方法を備えて下さいました。この道だけが、神が下さった唯一の救いの道です。この救い主イエス・キリストを信じて仰ぎ見る者は、永遠のいのちを得るのです。

## 5、 どうすれば永遠のいのちを持つことができますか？

(ヨハネ 3：16-17) 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

(解説) 神の御子イエス・キリストを信じる者は、永遠のいのちを得て、天国に入れます。なぜなら、イエスが十字架の上で自分から命を捨てて、私たちの罪の代価を代わりに支払って下さったからです。そのイエスのみわざを信頼して受け入れるなら、罪が赦されるので、地獄で滅びることなく、永遠のいのち、つまり天国を手に入れることができます。これを「救い」と言うのです。そのように聖書に書いてあるので、そのことば、神の約束をそのまま信頼するのです。必要なのは、それだけです。他にしなければならぬことは、何もありません。例えば、市役所から「今日お米を一人一袋無料で支給するので、受け取りに来て下さい」という知らせを聞いたとします。その「良い知らせ」を信じた人は、市役所に行って、ただで受け取ります。でも「そんなことがあるわけない」と疑って信じなかった人は、行かないので、受け取ることができません。お米を得るために、何か努力して仕事してお金を払ったものではありません。「市役所でただでもらえる」という言葉を信じて行ったので、それを得たのです。信仰とは、そのようなものです。信仰とは、信頼できる方のことばを信じて頼って、それを確信して平安を得ることです。イエス・キリストの救いのみことばは、真実なことば、信頼するに値する、確実な神の約束なのです。

## 6、 あなたがもし今死んでも、天国に行けると確信していますか？

- (1) はい、私はイエス・キリストを信じたので、今死んでも天国に行けると確信します。
- (2) いいえ、私はイエス・キリストを信じていないので、このままでは天国に行けません。
- (3) 私はまだよくわかりません。

・・・まだ決心ができない人を、決して急がせないで下さい。人それぞれのペースというものがあります。学びを進めていくうちに、だんだんとわかってくるものです。祈りながら、焦らずにゆっくりと待ってあげて下さい。主の時になって、聖霊があなたと参加者の心の中に直接働きかけて、救いへと導いて下さいますように。

## 第5章

### どうやって礼拝しますか？（ヨハネ4章）

#### 1、 イエスが与える水とは、どんな水ですか？

（ヨハネ4：13-14）イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

（ヨハネ7：37-39）「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れるようになります。」イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。

（解説）この世の水は、一度飲んでも、また渴きます。「この世の水」とは、例えば人間の愛、お金、学問知識、名誉、快樂などのことです。この世のものは、どんなに沢山得たとしても、もっと欲しくなります。なので、いくら得ても満足できません。しかし、イエス様が与える生ける水を飲む者は、決して渴くことはありません。「生ける水」とは、永遠のいのちを与えるイエス・キリストの救い、愛、喜び、平安のことです。イエス様を信じて抛り頼む者は、御霊によってその生ける水が心の奥底から泉のようにわき出て、それをいつも飲むことができます。イエス様だけが私たちに本当に満足を与えることのできる方です。

#### 2、 イエスは女に、なぜ夫を呼んで来るように言いましたか？

（ヨハネ4：16-18）イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がない、と言ったのは、そのとおりです。あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

（解説）そのサマリアの女は、以前夫が5人いました。今一緒にいる男も、本当の夫ではありません。つまり、夫婦関係が良くなかったのです。夫をどんなに取り換えても、ちっともうまくいきません。他の人の前にも、恥ずかしいことです。このような問題は、誰にも知られたくありません。しかしイエス様は、私たちの隠れている問題の全てを知っておられるお方です。ただ知っているだけでなく、その問題を解決してあげたいと思っています。なので、彼女に「夫を呼んで来なさい」と言って、その問題を明らかに示しました。イエス様は私たちの霊の医者です。問題を見せないで隠していたら、治療することができません。あなたの心の奥にある傷や、誰にも言えない深い問題を、イエス様に見せて、治療台に乗って下さい。イエス様はあなたの心の傷をいやして下さいます。

### 3、 女は以前、どのように礼拝していましたか？

(ヨハネ 4：20-21) 私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。

(解説) イエス様がその女の一番痛い傷にふれたとき、女はすぐにその話題を変えてしまいました。本当の問題を隠すために、「宗教論争」を始めたのです。サマリア人とユダヤ人の小さな教理の違いを言って、どちらが正しいかと質問をぶつけました。今日でも、自分の心の奥の本当の問題は隠したまま言わないで、宗教論争を仕掛ける人が多くいます。その女は、宗教の儀式、礼拝の場所や形式のような、表面上のことだけしか知りませんでした。先祖や親たちから伝えられた伝統や習慣の通りに礼拝して、その教えだけが正しいと信じ込んでいたのです。しかし彼女は、自分で何を拝んでいるのか知らないで礼拝しています。宗教上の儀式だけによってどんなに頑張っても、問題を解決することはできません。何の益もなく、意味もなく、答えもなく、ただ疲れるだけです。……女の質問に対して、イエス様は「この山か、エルサレムか」を答えませんでした。そうではなくて、礼拝の「本質」を明らかにしたのです。それは「私たちは誰を礼拝するのか」ということです。私たちはイエス様によって救いを得て、父なる神を礼拝しなければなりません。

### 4、 「御霊と真理によって礼拝する」とはどういう意味ですか？

(ヨハネ 4：23-24) しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

(解説) 神は霊なので、人間の目には見えません。しかし今もこの場所に私たちと共にいます。だから、私たちは肉적인思い、ただのプログラム、表面だけの形式で礼拝してはいけません。人間の中にも霊はありますが、罪によってそれが死んでいる状態です。しかしイエス様を信じる者の内には、聖霊が宿るようになり、霊が生きます。その聖霊によって、霊である神と交わりを持つことができるのです。「御霊によって礼拝する」というのは、この聖霊に満たされて、聖霊の導きに従って、聖霊の力によって、心を尽くして神と交わることです。では「真理によって礼拝する」というのは、どういう意味でしょうか？真理とは、イエス・キリストと、そのみことばのことです。礼拝は、自分の好き勝手にささげるものではありません。真理なるイエス・キリストの血潮によってのみ、まことの至聖所におられる天の父なる神と出会えるのです。そして、聖書の真理のみことばによって明らかに示された、イエス・キリストによる救いの道に従って、日々神の喜ばれる生きた供え物をささげなければなりません。御霊に満たされて、真理のみことばに従った生活をささげること、それが礼拝です。そのような心の態度、行動によって、神と共に毎日毎瞬間を生きる人生全部のことを「御霊と真理によって礼拝する」と表現しているのです。礼拝とはプログラムではなくて、生活そのものです。

## 5、 誰が一切のことを知らせてくれますか？

(ヨハネ 4：25-26) 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

(ヨハネ 14：6) イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

(解説) イエス様こそが、その来たるべきメシア、キリスト、救い主です。イエス・キリストだけが、私たちに一切のことを知らせて下さる方です。私たちはこのイエス様を通してのみ、父なる神のみもとに来ることができます。イエス様だけが「本当の神は誰か」を示すことができます。イエス様の血潮によってのみ、私たちは至聖所に入ることができます。まことの礼拝とは、イエス・キリストによって父なる神と交わることです。今もイエス様は、聖書のみことばを通して、あなたの心に語りかけています。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」このメシアなるイエス様の御声を聞いて、礼拝をささげて下さい。

## 6、 イエスに出会った後、その女の人生はどのように変わりましたか？

(ヨハネ 4：28-30) 彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのでしょうか。」そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。

(ヨハネ 4：39) さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことばによって、イエスを信じた。

(ヨハネ 8：32) あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

(解説) このサマリアの女は、以前は夫婦問題のゆえに人前に入るのも恥ずかしがるような人でした。しかし、真理なるイエス・キリストに出会ってからは、自由になりました。恥や恐れ、罪の束縛から全く解放されました。心の奥底から、イエス様の生ける水があふれ出て来たのです。だから、彼女は自分の水がめを置いて、すぐに町へ行って人々に対して、少しも恥ずかしがらないで大胆に、イエス様のことを言いました。「もしかすると、この方がキリストなのでしょうか？」と言っているのです。キリストのことをまだはっきりと理解していたわけでもありません。しかし、イエス様と出会って、心で何かを「体験」したので、話さずにはいられなかったのです。この女の証しによって、その町のサマリア人の多くの者が、イエス様を信じました。この女の人生は、全く変えられてしまいました。真理が彼女を自由にしたのです。以前は罪と恥、破壊と絶望の人生だったのに、今は愛と喜び、平安と勝利、確信に満ちた人生、キリストの証人、神に用いられる人となったのです。何て素晴らしいことでしょう。ハレルヤ！！

## 7、 あなたは誰を、どのように礼拝しますか？

## 第6章

### どうすればいのちに移ることができますか？（ヨハネ5章）

#### 1、 この38年も病気にかかっている人は、なぜ池の近くにいましたか？

（ヨハネ5：3-5）その中には、病人、目の見えない人、足の不自由な人、からだに麻痺のある人たちが大勢、横になっていた。（彼らは水が動くのを待っていた。それは、主の使いが時々この池に降りて来て水を動かすのだが、水が動かされてから最初に入った者が、どのような病気にかかっている者でも癒されたからである。）そこに、三十八年も病気にかかっている人がいた。

（解説）この病人は「主の使いが時々来て水を動かすとき最初に入った者はいやされる」という話を聞いて、それを信じて、その瞬間を待っていました。しかしその結果は、何年たってもいやされませんでした。世の中は、救いといやしについて色々な方法を言っているけど、実際にそれを得ていなければ、何の意味もありません。やってみて効果がないのなら、他の方法、本当の救いの道を探し求めるべきなのです。

#### 2、 この病人は、なぜ自分の病気が治らないとっていましたか？

（ヨハネ5：7）病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。」

（解説）「水がかき回されたとき誰も自分を池の中に入れてくれない。行こうとすると、他の人が先に下りて行ってしまふ。だから、自分の病気はいつまでたっても治らないのだ」と、この病人は考えていました。「自分が今不幸なのは周りの人のせいだ」と思っていたのです。このように考えて他人を責めてばかりしては、決して幸せになれません。自分の人生の責任は、自分で取るべきです。幸せとは、自分の手で選び取るものなのです。

#### 3、 聖書の中に「安息日に床を取り上げてはいけない」と本当に書いてありますか？

（ヨハネ5：10）そこでユダヤ人たちは、その癒やされた人に、「今日は安息日だ。床を取り上げることは許されていない」と言った。

（エレミヤ17：21-22）主はこう言われる。あなたがた自身、気をつけて、安息日に荷物を運ぶな。また、それをエルサレムの門の内に持ち込むな。また、安息日に荷物を家から出すな。いかなる仕事もするな。安息日を聖なるものとせよ。わたしがあなたがたの先祖に命じたとおりにだ。

（ルカ14：3-5）イエスは、律法の専門家たちやパリサイ人たちに対して、「安息日に癒やすのは律法にかなっているのでしょうか、いないのでしょうか」と言われた。彼らは黙っていた。それで、イエスはそ

の人を抱いて癒やし、帰された。それから、彼らに言われた。「自分の息子や牛が井戸に落ちたのに、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者が、あなたがたのうちにいるでしょうか。」

(解説) 聖書には「安息日に仕事をするな。荷物を運ぶな」とは書いてありますが、「病気がいやされた後、床を取り上げてはいけない」と直接は書いていません。安息日を守る本質的理由は、その日に主を覚えて、その時間を聖なるものとするためです。(ルカ 14 : 3-5) に書いてある通り、安息日であっても人をいやすことは律法にかなっています。主の御心は、人を救うことです。主の御心よりも律法の文字を上置いて、律法を人間的考えによって拡大解釈し、それによって人をさばくのが「律法主義」です。律法と律法「主義」とは違います。私たちが聖書の言葉を利用して人を攻撃するときに、律法主義者になってしまうことがあるのです。

#### 4、 ユダヤ人たちは、なぜイエスを迫害し殺そうと思いましたか？

(ヨハネ 5 : 16-18) そのためユダヤ人たちは、イエスを迫害し始めた。イエスが、安息日にこのようなことをしておられたからである。イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」そのためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っていただけでなく、神をご自分の父と呼び、ご自分を神と等しくされたからである。

(解説) 「イエスは安息日を破っていて、しかも自分を神と等しいと言っている」と思い込んだので、ユダヤ人たちはイエスを迫害し殺そうと思いました。しかし、イエスは安息日の本質を守っていました。そしてイエスは神の御子であり、父なる神と一体なるお方です。その父なる神は今に至るまで働いておられて、父なる神と共に御子なるイエス様が安息日に父のわざを働いても、安息日を破ることはありませんのです。「人の子は安息日にも主です。」(ルカ 6 : 5) ユダヤ人たちは、この主を理解していなかったため、イエスを迫害し殺そうと思いました。律法に熱心であっても、主がどんな方であるかを知らない、主の御心とは逆のことをしてしまうことがあるのです。

#### 5、 ユダヤ人たちは聖書を調べているのに、なぜ永遠のいのちを得ませんか？

(ヨハネ 5 : 39-40) あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証ししているものです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

(ヨハネ 5 : 46) もしも、あなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたはずです。モーセが書いたのはわたしのことなのですから。

(ヨハネ 20 : 31) これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

(解説) ユダヤ人たちは聖書の中に永遠のいのちがあると思って、熱心に聖書を調べています。しかし

その聖書は、イエス・キリストについて証ししているものです。モーセが旧約聖書の中で書いたのは、キリストのことでした。だから、旧約聖書を信じるなら、イエスを信じるはずです。しかしユダヤ人たちは、聖書を調べて信じていても、目の前に現れたイエスのもとに来て信じようとはしませんでした。だから、聖書をよく知っていたのに、永遠のいのちを得ることができないのです。このようなことは、今日でも起こります。多くの人が聖書を読んでいるけど、その中心テーマであるイエス・キリストのもとに来て、心から信じようとしなければ、永遠のいのちには至りません。大学で聖書概論を教えている教授がキリストを信じていない、という話を聞いたことがあります。しかし、小さな子どもでも聖書のみことばをそのまま素直に信じてキリストを受け入れるなら、救いを得るのです。私たちが今、聖書を学んでいるのは、知識教養のためではありません。神の御子イエス・キリストを信じていのちを得るためなのです。

## 6、 どうすれば死からいのちに移ることができますか？

(ヨハネ 5：24) まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています。

(解説) イエスのみことばを聞いて、御子イエスを遣わされた父なる神を信じる者は、最後の審判によって永遠の死である地獄に行くことがなく、罪赦されて永遠のいのちに移されます。その永遠のいのちは、死んだ後で天国に行ってから与えられるものではありません。イエスを信じたときに、今この地上で生きている間に、すでに永遠のいのちを持っているのです。あなたは今、イエス・キリストのことば、聖書のみことばを聞いています。そのみことばなるキリストを遣わした神様を、あなたは信じますか？ そうしたのなら、あなたは永遠の死から永遠のいのちへと、もうすでに移されたと確信して良いのです。

## 7、 あなたは死からいのちに移りましたか？

## 第7章

### なぜイエスを信じますか？（ヨハネ6章）

#### 1、 群衆は、なぜイエスについて行きましたか？

（ヨハネ6：2）大勢の群衆がイエスについて行った。イエスが病人たちになさっていたしるしを見たからであった。

（解説）イエスが病人たちになさっていたしるしを見たから、群衆はイエスについて行きました。イエスが自分たちのために利益となることをしてくれると期待していたので、イエスを信じてついて行ったのです。このように「自分の期待や願いに応じてくれるから」という理由で信仰するスタイルは、後でその期待が裏切られると、信仰から離れるようになります。自分の願いをかなえるためだけに信じるのは、神中心の信仰ではなく、自己中心の信仰です。私たちは「なぜイエスを信じるのか」を、自分自身に深く問い直す必要があるのです。

#### 2、 イエスは、なぜただ一人で山に退かれましたか？

（ヨハネ6：14-15）人々はイエスがなさったしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。

（ヨハネ6：27）なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなるしない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。」

（解説）人々は、イエスが五千人を食べさせたしるしを見て、イエスを自分たちの王にするために連れて行こうとしました。しかし、イエスがこの世に来た目的は、なくなってしまう食べ物を与えるためではなく、いつもまでもなくなるしない、永遠のいのちに至る食べ物を与えるためでした。だからイエスは群衆を避けて、ただ一人で山に退かれたのです。イエスは、ただ単に人々のニーズのためだけに、人々から利用されるための方ではありません。神様を、何か自分のご利益のためのお守りか、打ち出の小づち、アラジンの魔法のランプのように考えてはいけません。イエスは全世界と私たちを治めるまことの王の王なのです。

#### 3、 群衆はイエスを信じられるように、何を求めましたか？

（ヨハネ6：30-31）それで、彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じられるように、どんなしるしを行われるのですか。何をしてくださいますか。私たちの先祖は、荒野でマナを

食べました。『神は彼らに、食べ物として天からのパンを与えられた』と書いてあるとおりです。」

(解説)「イエスを信じられるように何かしるしを見せてほしい」と群衆は言いました。彼らの先祖、旧約時代のイスラエルの民は、荒野で天から与えられたマナを食べました。そのように、何かこの世で現実的な必要を満たしてくれる奇跡、しるしを求めて、それが与えられたら信じる、と言うのです。彼らにとっては、パンが神様でした。神様よりもパンがもっと大切で、パンを得るために神様を利用しているだけなのです。しかし、このような信仰では、必要が満たされるまでは熱心に祈り求めても、現実問題がなくなったら、神から離れていきます。「何かをしてくれるから信じる」という信仰は、結局は長続きしないのです。

#### 4、 人々が求める食べ物とイエスが与える食べ物は、どう違いますか？

(ヨハネ 6 : 27) なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなるしない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。」

(ヨハネ 6 : 54) わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。

(ヨハネ 6 : 58) これは天から下って来たパンです。先祖が食べて、なお死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きています。」

(ヨハネ 6 : 63) いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。

(解説) 人々が求める食べ物は、食べたらずなくなってしまう、いくら食べても最後は死んでしまいます。永遠のためには、肉は何の益ももたらしません。しかしイエスが与える食べ物は、いつまでもなくなるしない、永遠のいのちに至る食べ物です。食べる者にいのちを与え、永遠に生きるようにさせます。イエスの「肉と血」とは、十字架上でささげられたイエスの体と、流された血潮を意味します。つまりイエスの肉を食べ、その血を飲む、というのは、聖餐式が意味しているように、イエスのなされた十字架での救いのみわざを覚えて、それを信仰によって受け入れる、ということです。イエスが話すみことばは、御霊であり、いのちそのものです。私たちは、このイエスが与える食べ物、いのちのみことばであるキリストを食べる、つまり信じることによって、永遠のいのちを受けるのです。

#### 5、 弟子たちのうちの多くの者は、なぜイエスと共に歩まなくなりましたか？

(ヨハネ 6 : 60) これを聞いて、弟子たちのうちの多くの者が言った。「これはひどい話だ。だれが聞いていられるだろうか。」

(ヨハネ 6 : 66) こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去り、もはやイエスとともに歩もうとはしなくなった。

(解説) イエスの話を聞いて、弟子たちのうちの多くの者は離れ去って行きました。彼らはイエスのことばの表面上のことしか理解できず、その本当の意味は分かりませんでした。イエスのことばは霊です。だから人間的知識や肉によって理解しようとしても、決して理解できません。「御霊に属することは、御霊によって判断するものだからです」(I コリント 2:14)。今日でも、イエスを信じた後でイエスのもとを去り、共に歩まなくなる人が多くいます。それは、肉的なことを求めて肉に従ってついて行っても、御霊によっていのちのみことばを受け入れないからなのです。

## 6、 十二弟子は、なぜイエスに従いましたか？

(ヨハネ 6:68-69) すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。私たちは、あなたが神の聖者であると信じ、また知っています。」

(マルコ 10:28-30) ペテロがイエスにこう言い出した。「ご覧ください。私たちはすべてを捨てて、あなたに従って来ました。」イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は、今この世で、迫害とともに、家、兄弟、姉妹、母、子ども、畑を百倍受け、来たるべき世で永遠のいのちを受けます。」

(解説) ペテロは、イエスが永遠のいのちのことばを持っている神の聖者だと信じていたので、イエスから離れて行きませんでした。他の 11 人の弟子たちも同様でしたが、イスカリオテのユダは後でイエスを裏切りました。イエスを信じて従う道は狭い道で、その道を行く者は少ないです (マタイ 7:14)。しかし、イエスのため、また福音のために全てを捨てて従う者は、たとえ今この世で迫害があっても、捨てたものの百倍を受け、来るべき世で永遠のいのちを受けるのです。この約束のみことばがあるからこそ、イエスに従う道には価値があります。私たちは、この世で自分の利益だけのために信じるのではなく、永遠に至る祝福のために、イエスに従って行きましょう。

## 7、 あなたは、なぜイエスを信じますか？

## 第8章

### イエスをどう見ますか？（ヨハネ7章）

#### 1、 イエスの兄弟たちは、なぜイエスを信じていませんでしたか？

（ヨハネ7：3-5）そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った。「ここを去ってユダヤに行きなさい。そうすれば、弟子たちもあなたがしている働きを見ることができます。自分で公の場に出ることを願いながら、隠れて事を行う人はいません。このようなことを行うのなら、自分を世に示しなさい。」兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。

（Iコリント8：2）自分は何かを知っていると思う人がいたら、その人は、知るべきほどのことをまだ知らないのです。

（解説）イエスの兄弟たちは「イエスは自分の家族で小さい頃からよく知っている」と思っていました。しかし実際には、イエスの働きを理解できず、信じていなかったので。「自分はよく知っている」と思い込んでいる人は、実は本当に知るべきほどのこともまだ知らないのです。「私は小さいときからずっと教会に通っているのでキリスト教のことは知っている」と思っても、イエス・キリストご自身を体験的に知っていない、ということがあります。私たちは今までの既存概念、固定観念でイエスを見るのではなく、聖書が言っているありのままのイエスの姿を見なければなりません。

#### 2、 群衆はイエスについて、どのように言っていましたか？

（ヨハネ7：12）群衆はイエスについて、小声でいろいろと話をしていた。ある人たちは「良い人だ」と言い、別の人たちは「違う。群衆を惑わしているのだ」と言っていた。

（解説）群衆はイエスについて、ある人たちは「良い人だ」と言い、別の人たちは「群衆を惑わしているのだ」と言っていました。今日でも人々はイエスについて「彼は良い人、偉大な教祖、聖人君子だ」と言っています。しかしイエスは自分を神と等しい者だと主張しました。もしそうだとしたら「イエスはただ単なる良い人間だ」と言うことはできません。ではイエスは誰なのか、答えは次の3つの中の1つでしかありません。それは（1）うそつき（2）狂人（3）本当の神、です。イエスの人格と言動を見れば、彼がうそつきか狂人ではないことは明らかです。と言うことは、イエスはただの良い人ではなく、本当に神であられる方なのです。

#### 3、 人々はイエスが誰か知っていましたか？

（ヨハネ7：40-43）このことばを聞いて、群衆の中には、「この方は、確かにあの預言者だ」と言う人たちがいた。別の人たちは「この方はキリストだ」と言った。しかし、このように言う人たちもい

た。「キリストはガリラヤから出るだろうか。キリストはダビデの子孫から、ダビデがいた村、ベツレヘムから出ると、聖書は言っているではないか。」こうして、イエスのことで群衆の間に分裂が生じた。

(解説) 群衆の中のある人たちは「キリストはベツレヘムから出ると聖書は言っている。だからガリラヤ出身のイエスはキリストではない」と言いました。しかし、イエスは実はダビデの子孫であり(マタイ 1:1-16)、ベツレヘムで生まれました(ルカ 2:1-7)。人々はその事実を知らないで、聖書をよく知っていても、間違った判断をしていました。今日でも人々は、聖書の知識、教理神学、歴史や地理などはよく知っていても、「イエスは誰なのか」を知りません。どんなに聖書知識があっても、イエスの本当の姿を個人関係的に知らなければ、聖書を知らないのと同じです。なぜなら聖書の中心テーマはイエス・キリストだからです。まずイエスを知るときに、聖書全体が何を言いたいのかを知ることができるのです。

#### 4、 パリサイ人たちは、イエスを何によって判断していましたか？

(ヨハネ 7:48-49) 議員やパリサイ人の中で、だれかイエスを信じた者がいたか。それにしても、律法を知らないこの群衆はのろわれている。」

(解説) パリサイ人たちは「自分たちは上流階級で、群衆は律法を知らないのろわれた下流階級だ」という意識がありました。「自分たちだけが正しい」と思って高慢になり、人々を見下していました。だから「議員やパリサイ人の中でイエスを信じた者はいないから、イエスは信じるべきではない」と判断したのです。今日でも人々はこのように言います。「えらい人や知識人たちが信じていないから、私も信じない」「家族や友人たちがクリスチャンではないから、私も信じない」「クリスチャンなのに悪いことをする人がいるから、私は信じない」・・・彼らの判断基準は「人」です。「人がどう言うか」によって自分の意見を決めていると、人々のうわさに左右されて、本当は何が正しいのか、結局は分からなくなってしまうのです。

#### 5、 ニコデモは、イエスをどう判断しましたか？

(ヨハネ 7:50-51) 彼らのうちの一人で、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。「私たちの律法は、まず本人から話を聞き、その人が何をしているのかを知ったうえでなければ、さばくことをしないのではないか。」

(解説) ニコデモはパリサイ人で議員の一人でしたが、以前イエスのもとに訪ねて来たことがありました。彼は謙遜に真理を求めて自分が直接会いに行ったので、イエスの本当の姿を知りました。律法にある通りに、まず本人から話を聞き、その人が何をしているのかを知ったので、正しく判断することができました。これこそが正しい信仰の態度です。私たちは、まず聖書の中で言われている本当のイエスに出会って、自分の目と耳で直接確かめてから、物事の判断をするべきなのです。

## 6、 イエスは自分をどう判断しなさいと言いましたか？

(ヨハネ 7 : 24) うわべで人をさばかないで、正しいさばきを行いなさい。」

(エレミヤ 29 : 12-13) あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めらば、わたしを見つける。

(解説) イエスは「うわべで人をさばくな」と言いました。私たちはイエスのことを、こう見てしまいます。「人々がキリスト教についてどう言うか、えらい人たちがどう言うか、教会はどんな所か、私が信じたら周りの人たちにどう思われるか」……しかしそのようなことは全て「うわべ」のことです。人々がイエスを信じないのは、イエスを正しく知らないからです。イエスが誰なのかを知るなら、イエスを正しく信じるようになります。イエスを正しく知るには、自分で直接聖書を読み、謙遜に祈り求める中で、イエスに「出会う」必要があるのです。心を尽くして真剣に神を捜し求める者に、主はご自分を現わしてください。

## 7、 あなたはイエスをどう見ますか？

# 第 9 章

## わたしもあなたを罪に定めない (ヨハネ 8 : 1-11)

### 1、 律法学者とパリサイ人はなぜ、その女を捕らえましたか？

(ヨハネ 8 : 3-6) すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられた女を連れて来て、真ん中に立たせ、イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするよう私たちに命じています。あなたは何と言われますか。」彼らはイエスを告発する理由を得ようと、イエスを試みてこう言ったのであった。だが、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。

(解説) イエスを試みるため、イエスを告発する理由を得るために、彼らはその女を捕らえました。律法を守ろうとして、そうしたものではありません。イエスを捕らえるために、その女と律法を「利用」したのです。これが「律法主義」の姿です。「律法」は良いもの、正しいものです。しかし「律法主義」は、他人を責めて、他人を破壊し、そして自分をも破壊します。もし私たちが神様よりも律法や規則、教理を愛

するようになると、私たちも律法主義者になることが十分ありえます。聖書のみことばは、自分に適用するものです。聖書のみことばを他人に適用するために利用するとき、私たちも他人を責めるようになり、自分も知らないうちに律法主義者、パリサイ・クリスチャンになるのです。

## 2、 イエスの答えを聞いた後、彼らはなぜ、出て行きましたか？

(ヨハネ 8：7-9) しかし、彼らが問い続けるので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」そしてイエスは、再び身をかがめて、地面に何かを書き続けられた。彼らはそれを聞くと、年長者たちから始まり、一人、また一人と去って行き、真ん中にいた女とともに、イエスだけが残された。

(解説) イエスが「罪のない者が、まず石を投げなさい」という言葉を聞いて、彼らは、自分に罪がないかどうか考えたことでしょう。そして自分も罪があることを認めたので、年長者たちから始めて、一人一人出て行きました。律法主義者は他人を責めますが、それはブーメランのように、全部自分に返って来て、今度は自分を責めるようになります。この世の中に、罪が一つもない人は誰もいません。私たちはみな罪人です。もし「私には罪がない」という人がいたら、それは自分を知らないか、自分自身にうそをついているのです。私たちが自分の罪を忘れるとき「自分だけが正しい」と思って、他人を責めるようになります。もし自分に罪があるなら、石を投げてはいけません。だから、石を投げることのできる人は、この世の中に誰一人いません。

## 3、 あなたは「自分は罪のない者だ」と言えますか？ もし罪があるとしたら、あなたは他の人にさばきを下すことができますか？

(ヨハネ 8：10) イエスは身を起こして、彼女に言われた。「女の人よ、彼らはどこにいますか。だれもあなたにさばきを下さなかったのですか。」

(Iヨハネ 1：8) もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。

(ローマ 2：1) ですから、すべて他人をさばく者よ、あなたに弁解の余地はありません。あなたは他人をさばくことで、自分自身にさばきを下しています。さばくあなたが同じことを行っているからです。

(ヤコブ 4：11-12) 兄弟たち、互いに悪口を言い合ってははいけません。自分の兄弟について悪口を言ったり、さばいたりする者は、律法について悪口を言い、律法をさばいているのです。もしあなたが律法をさばくなら、律法を行う者ではなく、さばく者です。律法を定め、さばきを行う方はただひとり、救うことも滅ぼすこともできる方です。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。

(黙示録 12：10) 私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。

(解説) 私たちはみな「自分は罪の全くない者だ」などと言うことは決してできません。もし私たちがみ

な罪人だとしたら、私たちは他の人にさばきを下す権利などありません。人をさばいて罪に定めることができるのはただひとり、神だけです。他人を罪に定めている人は、自分を神と同等の立場に置いて、本当は神がすべきことを自分が勝手にやっているのです。それは自分が神になろうとすることです。何という大きな高慢の罪でしょう！それは、サタンと同じ罪を犯すことなのです。兄弟を訴えることは、私たちのすることではありません。サタンと同じことをして、自分がさばかれることがないようにしましょう。

#### 4、 イエスはその女にさばきを下しましたか？

(ヨハネ 8 : 11) 彼女は言った。「はい、主よ。だれも。」イエスは言われた。「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。』

(ルカ 7 : 48) そして彼女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。

(解説) イエス様だけが、罪を犯さなかった方です。イエス様は、この地上で人間として生きておられる間も、一度も罪を犯しませんでした。そのイエス様でさえ、彼女をさばかなかったのです。だとしたら、どうして罪人の私たちが、他人を罪に定めることができますでしょうか。イエス様は、彼女を一言も非難しませんでした。むしろ彼女を赦しました。イエス様だけが、罪を赦す権威を持っておられる方です。イエス様は、私たちが罪に定めるために来たのではなく、私たちの罪をおおい、罪の代価を負って、十字架で死んで、私たちが罪から解放するために来たのです。これが福音です。これこそが私たちの救いです。福音の力だけが、罪に勝利して、人を変えることができます。人をいくら責めても、その人は変わりません。ただ福音によって罪赦されたときに、人は変えられるのです。

#### 5、 もし罪を犯した者がいたら、私たちはどのようにしたらよいのでしょうか？

(ルカ 23 : 34) そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

(エペソ 4 : 32) 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

(解説) もし罪を犯した人がいたら、まず第一に、私たちはその人を赦すと決心して下さい。私たち自身も、イエス様の十字架のおかげで罪赦されたのです。イエス様は、その人のためにも十字架にかかられました。だから、その人も十字架によって赦されるのです。「私だって赦されたのだから、あの人だって赦されるはずだ」と信じて下さい。罪を犯した人を見たら、イエス様の十字架を思い出して下さい。イエス様は十字架の上で「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです」と祈りました。私たちも、イエス様が祈ったように祈りましょう。その人の上に神のあわれみが注がれるように求めましょう。

(マタイ 18 : 15-17) また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのと

ころで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たことになります。もし聞き入れないなら、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。二人または三人の証人の証言によって、すべてのことが立証されるようにするためです。それでもなお、言うことを聞き入れないなら、教会に伝えなさい。教会の言うことさえも聞き入れないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。

(解説) 教会のメンバーのうちのある人が罪を犯しているのを知ったら、それをすぐに他の人に言いふらしてはいけません。段階があります。

- (1) まずは、2人だけの所で指摘します。他の人がいる所で責めたら、恥をかかせて、その人は怒って否定するか、傷を受けて心を閉ざしてしまいます。2人だけの静かな所で、穏やかに、愛をもってさとすなら、その人も聞き入れやすいでしょう。上から下に言うようなスタイルではなく、同じ罪人として、兄弟・友として言うのです。そして彼が聞き入れたら、あなたはその兄弟の心を得たのです。彼はあなたのおかげで罪を悔い改めることができ、あなたに感謝することでしょう。
- (2) 2人だけの所で指摘しても聞き入れないなら、次の段階は、他の人2、3人と一緒に、事実をちゃんと確認しながら、その人に伝えます。そのときも、人民裁判のようにみんなで一方的に責め立てるのではなく、相手の言い分も聞きながら、愛をもって冷静に話し合しましょう。
- (3) それでもなお聞き入れないなら、教会に伝えて、一定期間の礼拝出席停止などの、戒規処分をすることになります。教会全体の意思として、公式に悔い改めを求めます。
- (4) それでも聞こうとしないなら、最終的には教会から除名すると決定します。

(Ⅱコリント2:6-8) その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰で十分ですから、あなたがたは、むしろその人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶされてしまうかもしれません。そこで私はあなたがたに、その人へのあなたがたの愛を確認することを勧めます。

(解説) 罪を犯した人は、もうすでに多くの人からさばきを受けている場合がほとんどです。あなたがその上にさらにさばく必要はありません。崖っぷちに立ってフラフラしている人を蹴飛ばすのは、良くないことです。それに対して、その人を慰める側に立つ人は、ほんの少数です。あなたは、その人が深い悲しみに押しつぶされてしまわないように、慰める人となってください。その人に「それにもかかわらず、イエス様はあなたを愛しているよ。私も愛しているよ」と言って、愛の関係を確認して下さい。そうすることが、その人を立ち直らせる力となるのです。

(ガラテヤ6:1-2) 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。

(解説) あやまちに陥った人にそのことを言う目的は、自分の言いたいことを言ってすっきりすることではなくて、その人を正し、回復させることです。その目的を達成するためには、正す人自身が御霊に満たされて、よく祈り、柔和な心で話さなければなりません。また自分自身も、他人を罪に定めて怒ったり、傲慢になって見下したり、あるいはその人に同情して同調してしまったりする罪の誘惑に陥らないように、気をつけなければなりません。そして他人事のように責めるのではなく、その人の罪の重荷、苦しみを一緒に負って、回復するまで助けるという責任感を持って、その人との交わりを維持して、キリストの愛の律法を成就させなければなりません。他人の罪を指摘するのは簡単ですが、その重荷を負ってあげるのは難しいことです。だから、これは実は大変大きな責任の伴う仕事なのです。その責任を最後まで負う覚悟がない人には、他人を正す資格はありません。

(ヤコブ 5:19-20) 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおうことになるのだと、知るべきです。

(解説) 真理から迷い出た人は、正しい道に戻りたいのだけど、自分の力だけでは戻れない状態に陥っているのです。そのようなときに、その人が本来の道に戻れるように助けて、連れ戻してくれる人は、何とありがたいでしょう。罪人を連れ戻す人は、そのたましいを死から救い出し、多くの罪をおおうのです。あなたは、自分が罪に陥って困ったことがありますか？そのときに、あなたを迷いの道から連れ戻してくれた友人はいましたか？……今度は、あなたが他の人を連れ戻す番です。あなたも、そのときのありがたい友人のようになって、罪に迷っている人を連れ戻しましょう。あなたを通して、多くのたましいが死から救い出されるように、お祈りします。

## 第 10 章

### 何があなたを自由にしますか？ (ヨハネ 8 : 12-59)

#### 1、 イエスはどこから来て、どこへ行きますか？

(ヨハネ 8 : 14) イエスは彼らに答えられた。「たとえ、わたしが自分自身について証しをしても、わたしの証しは真実です。わたしは自分がどこから来たのか、また、どこへ行くのかを知っているのですから。しかしあなたがたは、わたしがどこから来て、どこへ行くのかを知りません。

(解説) イエスは天から下って来られました。そして、十字架で死なれて復活した後、再び天へ上がっていきます。この天は、万物の上にある世界、天地創造の前から永遠に存在する世界、父なる神のみもとです。この天がイエス・キリストの起源です。万物の中にいる私たち人間は、この天を知らないのです。自分がどこから来てどこへ行くのかを知りません。しかし、イエス・キリストを信じる者は、イエスが上って行かれるその天に、共に上るようになるのです。

#### 2、 どのような者が、自分の罪の中で死にますか？

(ヨハネ 8 : 23-24) イエスは彼らに言われた。「あなたがたは下から来た者ですが、わたしは上から来た者です。あなたがたはこの世の者ですが、わたしはこの世の者ではありません。それで、あなたがたは自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。わたしが『わたしはある』であることを信じなければ、あなたがたは、自分の罪の中で死ぬことになるからです。」

(出エジプト 3 : 14) 神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところへ遣わされた、と。」

(解説) イエスが上から来た神の御子であり、「わたしはある」と表現される方であることを信じなければ、人間は自分の罪の中で死ぬことになります。「わたしはある」という表現は、神の永遠的存在を意味します (出エジプト 3 : 14)。私たち人間は下から来た者、この世の者なので、永遠ではなく、有限であり、命にも限りがあります。私たち皆生まれながらに罪人なので、その自分の罪のゆえに、さばかれて地獄に行かなくてはならない存在です。しかしイエス・キリストは神が人となった方なので、人を罪と死から救うことができます。このイエス・キリストを信じる者は、永遠に生きるのです。

#### 3、 イエスは、誰が喜ぶことを行いますか？

(ヨハネ 8 : 28-29) そこで、イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げたとき、そのとき、わたしが『わたしはある』であること、また、わたしが自分からは何もせず、父がわたしに教えられたとおり

に、これらのことを話していたことを、あなたがたは知るようになります。わたしを遣わした方は、わたしとともにおられます。わたしを一人残されることはありません。わたしは、その方が喜ばれることをいつも行うからです。」

(解説) イエスは、イエスを遣わした方、つまり父なる神が喜ぶことをいつも行います。イエスは父なる神が御子イエスに教えられた通りに、そのままを話します。そして父は御子と共におられて、御子を一人に残されることはありません。このように父と御子の関係は、父が御子を喜び、栄光を与えて、御子は父に従う、という愛の交わりです。それで父と御子は一つとなっています。このような父と御子の、永遠の喜びの交わりの中に、私たちが招かれているのです。

#### 4、 どのような者が、本当にイエスの弟子ですか？

(ヨハネ 8 : 31) イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。」

(解説) イエスのことばにとどまるなら、本当にイエスの弟子です。イエスはこのことを、イエスを「信じた」ユダヤ人たちに言いました。イエスを信じると口では言っても、実際にイエスのみことばにとどまっていないなら、本当に弟子であるとは言えません。「みことばにとどまる」とは、主のみことばをいつも心にとめて、それを実践し従い続ける、という意味です。せっかくイエスを信じて最初はみことばに従っていても、途中から実践しなくなってしまったら、弟子ではありません。弟子とは、生涯学び続け、従い通す者です。私たちは主の力に頼り頼みながら、みことばにとどまり続ける、本当の弟子とされていきましょう。

#### 5、 悪魔はどんな者ですか？

(ヨハネ 8 : 44) あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。

(解説) 悪魔は人殺しで、真理がありません。彼の本性は偽り者、偽りの父です。私たち人間は罪人で、罪と悪魔に束縛された、悪魔から出た者、悪魔の子でした。しかしイエス・キリストの真理のみことばを信じる者は、悪魔の偽りの束縛から解放されて、自由になります。悪魔は偽りを言うとき、まるでそれが真理であるかのように、私たちの心の中にささやきます。それで世の中の多くの人たちはだまされて、悪魔の偽りの言葉に従ってしまうのです。私たちは悪魔のささやきに対して、断固として「NO！」と言わなければなりません。イエスの御名の権威によって、悪魔の偽りの言葉を取り消します！

#### 6、 イエスは、いつから存在するお方ですか？

(ヨハネ 8 : 56-58) あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを見て、喜んだのです。」そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなたはまだ五十歳になっていないのに、アブラハムを見たのか。」イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』なのです。」

(ヘブル 11 : 13) これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。

(解説) イエスは、アブラハムが生まれる前から存在する方、「わたしはある」と言われる永遠なる神であるお方です。アブラハムは、イエス・キリストの救いの日を、はるか遠くから信仰によって仰ぎ見て、大いに喜びました (ヘブル 11 : 13)。イエスは約 2 千年前にベツレヘムで地上に生まれましたが、そのときから存在し始めたわけではありません。天の父なる神と共に永遠に存在しておられた御子が、人間となってこの世に下って来られたのです。このイエス・キリストの永遠性を理解するときに、私たちは救いの本当の意味、永遠のいのちの交わりを、今この世で体験し、信仰によって大いに喜ぶ者とされるのです。

## 7、何があなたを自由にしますか？

(ヨハネ 8 : 32) あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

(ヨハネ 14 : 6) イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

(解説) イエスは「わたしが真理である」と言いました。この真理そのものであるお方、イエス・キリストを知るときに、そのお方が私たちを自由にしてくださいます。「キリストを知る」ということは、キリストが天から来られた永遠なる神の御子で、父なる神と一つとなって交わりを持っておられるので、その喜びの交わりに私たちも参加して、主と体験的に出会う、という意味です。その永遠の真理を知るときに、あなたはこの世の中の全ての束縛から解放されて、主の真理の力によって本当の自由を得るのです。

## 8、あなたは真理を知り、本当に自由になりたいですか？

## 第 11 章

### 霊の目が見えるために (ヨハネ 9 章)

#### 1、 弟子たちは、この人が盲目で生まれた理由を、何だと思っていましたか？

(ヨハネ 9 : 2) 弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」

(解説) 弟子たちは、この人が盲目で生まれたのは、本人か、又はその両親が罪を犯したからではないか、とっていました。ある人たちは「前世に悪いことをしたから現世で不幸になるのだ」とか「私が今不幸なのは、私が何か罪を犯したせいだろうか」と考えます。または「私の罪のせいで、私の子どもはこんな不幸な目に遭うのだろうか」とか「自分が不幸なのは親や社会のせいだ」と思って、自分や他者を責めたりします。このような考え方を「因果応報」とか「運命論」と言います。このような因果応報的運命論の考え方に立つと「不幸の原因が前世や他者にあるなら、今自分が幸せになろうと努力しても無駄だ」ということになってしまいます。しかし、ヨブのように、何も悪いことをしていなくても不幸な目に遭う、ということもあります。理由のわからない苦しみ、というものもたくさんあります。世の中の幸不幸は、因果応報だけでは説明しきれないのです。

#### 2、 この人が盲目で生まれたのは、何が現れるためですか？

(ヨハネ 9 : 3) イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。」

(解説) この人が盲目で生まれたのは、この人や両親が罪を犯したからではなく、この人に神のわざが現れるためだ、とイエスは言いました。神が人間に対して持っている計画は、いつも良い計画です。それは、その人の人生を通して神のわざ、神の栄光、神のすばらしさが現れることです。人はどんなに不幸と思える状況にあっても、イエスに出会って救いを体験するなら、その不幸は幸せに、苦しみは喜びに変えられます。その人の人生が神によって変えられた奇跡を通して、周りの多くの人々が神をあがめるようになります。これこそが神のみわざの現れです。神の救いを受けて神の栄光を現わすこと、これが人生の目的なのです。

#### 3、 ユダヤ人たちは、なぜこの人の言うことを信じませんでしたか？

(ヨハネ 9 : 18) ユダヤ人たちはこの人について、目が見えなかったのに見えるようになったことを信じず、ついには、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、

(ヨハネ 9 : 27) 彼は答えた。「すでに話しましたが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜも

う一度聞こうとするのですか。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」

(ヨハネ 9 : 34) 彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。

(解説) ユダヤ人たちは、その盲目だった人から「イエスが目を開いてくれた」という証言を直接何回も聞いたのに、それを信じませんでした。彼らは「イエスは安息日を守らないから、神のもとから来た者ではなく罪人だ」と思い込んでいたので、聞く前から「私は信じない」と決めていたのです。そしてこの盲目だった人のことも「全く罪の中で生まれた者だ」と見下していたので、彼の言うことを聞いても最初から全く受け入れようとしませんでした。人間は自分が正しいと思って先入観や既存概念で縛られていると、他人の声に耳を傾けなくなります。「イエスという人は、キリスト教とは、こういうものだ」と決めつけて見ていると、いくら聖書のみことばを聞いても、信じて変えられた人の証しを聞いても、耳に入らないのです。

#### 4、 「私たちは見える」と言っている者には、なぜ罪が残りますか？

(ヨハネ 9 : 41) イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、今、『私たちは見える』と言っているのですから、あなたがたの罪は残ります。」

(解説) パリサイ人の中でイエスと共にいた者たちは「自分は律法をよく知っていて霊的なことが見えている人だ」と思っていました。しかし実際には、自分の高慢の罪も見えていませんでした。人は高慢になると、霊の目が閉じてしまいます。霊的盲目の状態で自分の罪が見えなければ、悔い改めて主の赦しを受けることができません。だから罪が残るのです。「自分は見えているから大丈夫だ」と思う高慢の罪を悔い改めて「私は何も見えていない者です。どうか私の霊の目を開いてください」とへりくだって祈る者に、主は恵みを見させてくださいます。

#### 5、 この人は、なぜはっきりと証しすることができましたか？

(ヨハネ 9 : 25) 彼は答えた。「あの方が罪人かどうか私は知りませんが、一つのことは知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」

(ヨハネ 9 : 30-33) その人は彼らに答えた。「これは驚きです。あの方がどこから来られたのか、あなたがたが知らないとは。あの方は私の目を開けてくださったのです。私たちは知っています。神は、罪人たちの言うことはお聞きになりませんが、神を敬い、神のみこころを行う者がいれば、その人の言うことはお聞きくださいます。盲目で生まれた者の目を開けた人がいるなどと、昔から聞いたことがありません。あの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできなかつたはずですよ。」

(解説) この人は「一つのことは知っている。イエスが私の目を開けてくださった。あの方は神から来られた方だ」と言いました。自分自身が体験したことだから、他の人にもはっきり大胆に証言すること

ができたのです。自分が体験して知った確信は、他の人がどんなに否定しても揺らぐことはありません。伝道もこれと同じです。もし私たちがイエス・キリストを信じて救われたことを体験的に知ったのなら、それを黙っていることはできません。あなたは主イエスの救い、愛、恵み、いやしを体験しましたか？もしそうなら、他の誰が反対したとしても、恐れず大胆にはっきりと主イエスを証しするようになるのです。

## 6、 この人は、なぜイエスを信じることができましたか？

(ヨハネ 9：35-38) イエスは、ユダヤ人たちが彼を外に追い出したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」その人は答えた。「主よ、私が信じるができるように教えてください。その人はどなたですか。」イエスは彼に言われた。「あなたはその人を見ています。あなたと話しているのが、その人です。」彼は「主よ、信じます」と言って、イエスを礼拝した。

(イザヤ 57：15) いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名が聖である方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、砕かれた人、へりくだった人とともに住む。へりくだった人たちの霊を生かし、砕かれた人たちの心を生かすためである。

(解説) この人はイエスに「私が信じるができるように教えてください」と言いました。それでイエスが教えると、彼は「主よ、信じます」と言ってイエスを礼拝しました。この人は、へりくだって学ぼうとする態度があったので、神を受け入れる心がすでに準備されていました。だから彼は、肉の目が開かれただけでなく、霊の目が開かれて、イエスが神の御子であると知り、信じるができたのです。私は以前、ある先生からこのような言葉を聞きました。「もしある人が何かを教えようとして来ていたら、その人から学べる所はない。しかし、ある人が学ぼうとして来たら、その人から多くのことを学ぶことができる。」・・・私たちも「どうか教えてください」という、へりくだって学ぼうとする心で主を求めると、主は私たちの霊の目を開いて、主の姿を見させてくださいます。

## 7、 霊の目が見えるために、あなたはどうしたら良いですか？

(解説) この盲目だった人は、生まれたときから目が見えないという苦しみの中で、へりくだり、神を求めました。そのようなときに、主は彼と出会い、奇跡を起こして、信じて救われる恵みを見せてくださいました。あなたは今、苦しみに遭っていますか？理由のわからない困難や弱さに直面していますか？今こそ神の御前にへりくだり、ひれ伏すときです。その時に神は、あなたの人生にすばらしいみわざを現わしてくださいます。あなたは霊の目が開かれ、神の栄光を見るようになるのです！

## 第 12 章

### 牧者と羊の関係 (ヨハネ 10 章)

#### 1、 羊は、どうやって牧者と他の人を区別しますか？

(ヨハネ 10 : 3-5) 門番は牧者のために門を開き、羊たちはその声を聞き分けます。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出します。羊たちをみな外に出すと、牧者はその先頭に立って行き、羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。しかし、ほかの人には決してついて行かず、逃げて行きます。ほかの人たちの声は知らないからです。」

(解説) 羊たちは、牧者の声を知っているので聞き分けます。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出すので、羊たちはついて行きます。しかし他の人の声は知らないで、決してついて行かず、逃げ出します。これはたとえて、牧者はイエス様のこと、羊は私たちのことを意味しています。私たちが主の御声をよく知っているなら、主が私を呼ぶとき、それを聞いてついて行くことができます。主の御声を聞き分けるカギは「平安と確信」です。もしあなたが心の中で声を聞いて、それに平安と確信があるなら、それは主からのものだとして判断して、ついて行っても大丈夫です。しかし、恐れや不安、あせりやイライラなどを感じるのなら、それは主の御声ではなく、サタンの声です。そのように感じるときには、決して何か大事な決断を下してはいけません。あなたは主の御声を知っていますか？心の声を、正しく聞き分けましょう。

#### 2、 イエスが来たのは、何のためですか？

(ヨハネ 10 : 10) 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかになりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

(解説) サタンが来るのは、私たちの人生の良いものを盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためです。しかしイエス様が来たのは、私たちが永遠のいのちを得るため、それも「豊かに」得るためです。永遠のいのちをと、死後に得るものではありません。また、ただ単に今の命が長く続くことでもありません。クリスチャン人生とは、死後に天国に行く前までの間、この世で苦しみを何とかがまんして耐えていくだけのも、ではありません。永遠のいのちとは、主イエスを知って交わることによる、豊かないのちあふれる人生のことです。それは今、信じたときから始まり、死後も天国で永遠に続きます。あなたは永遠のいのちを「豊かに」得ていますか？それとも少しだけしか味わっていませんか？私たちはこれから、永遠のいのちの本当のすばらしさを、もっと豊かに知っていくようになるのです。

#### 3、 良い牧者は、雇い人とどう違いますか？

(ヨハネ 10 : 11-13) わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。

(解説) 雇い人は、羊が自分のものではなく、給料で雇われているだけなので、羊のことを心にかけていません。だから狼が来ると、羊を置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊を奪ったり散らしたりします。良い牧者であるイエス様は、羊である私たちのためにいのちを捨てます。私たちは主のものなので、主は私たちのことを、いつも心にかけてくれます。狼であるサタンが来ても、私たちを見捨てることなく、命をかけて守ってくださいます。だからイエス様は、十字架の上で自分の命を捨てて、私たちが罪と死とサタンから救い出してくださったのです。.....私たちは雇い人のように弟子を飼ってははいけません。良い牧者であるイエス様にならって、いのちを尽くして弟子を育てていくのです。

#### 4、 牧者と羊は、互いにどのように知っていますか？

(ヨハネ 10 : 14-15) わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。ちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じです。また、わたしは羊たちのために自分のいのちを捨てます。

(解説) 父なる神は御子イエスを知っておられ、御子も父を知っています。それと同じように、イエスはご自分のものである私たちのことを深く知っておられ、私たちもイエスを知っていきます。この「知る」というのは、単に頭の知識だけで知るという意味ではありません。ヘブル語で「知る」というのは「ヤダー」と言います。これは、夫婦関係のように互いに親しく、深く知り合う、という意味です。主イエスは私たちと、そのような関係を望んでおられます。ただ単に主のために良い行いをして、規則を守り、義務的に奉仕をする、といった表面的なものではありません。父と御子が互いに深く知り合う親しい交わりに参加するように、私たちも招かれているのです。

#### 5、 「この囲いに属さない他の羊たち」とは、誰のことですか？

(ヨハネ 10 : 16) わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。

(解説) 「この囲いに属さない他の羊たち」とは、まだイエスを信じていない人たちのことです。彼らはイエスの救いの囲いの中に属していないので、サタンによって襲われ、傷つけられ、殺されています。そのような人たちをも救いに導かなければならない、と主イエスは強く願っておられます。その未信者たちも主イエスを信じて、主の御声に聞き従い、唯一の牧者イエスによって一つの群れとなるためです。それこそが全ての人たちを愛するイエスの御心です。あなたはその御心を知っていますか？もし

あなたが主を愛するなら、主と共にこう告白しましょう。「彼らをも、私は導かなければなりません！」

## 6、 誰が羊たちをイエスの手から奪い去ることができますか？

(ヨハネ 10 : 28-29) わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。

(ローマ 8 : 38-39) 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

(解説) この世の誰であっても、サタンも、自分自身でさえも、私たちを主イエスの御手から奪い去ることはできません。なぜなら私たちは主にとって、全てにまさって大切だからです。主ご自身が永遠のいのちをすでに与えたので、私たちは永遠に、決して滅びることがないと約束されました。この関係は切ることができない関係、今だけでなく死後も天国で永遠に続く強固な関係です。あなたは牧者イエスの羊とされましたか？そうであるなら、この世界のどんな被造物も、あなたを主の愛の御手から引き離すことはできないのです。

## 7、 あなたはイエスと、どのような関係ですか？

## 第 13 章

### 誰が神の栄光を見ますか？ (ヨハネ 11 章)

#### 1、 イエスは、なぜその場所に 2 日とどまりましたか？

(ヨハネ 11 : 4-6) これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることになります。」イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。しかし、イエスはラザロが病んでいると聞いてからも、そのときいた場所に二日とどまられた。

(イザヤ 55 : 8-9) 「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、あなたがたの道は、わたしの道と異なるからだ。——主のことば——天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。

(解説) イエスは、ラザロの病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものだ、と言いました。それでラザロが病んでいると聞いてからも、すぐに行かないで、そのときいた場所に二日とどまっていました。私たちは「なぜ今すぐ行かないのか？今行って病気をいやしたほうが良いのに」と考えます。しかし神の思いと私たちの思いは、しばしば異なります。イエスは、自分の考えよりも父なる神の考え、神の計画、神の時をいつも優先していました。それは、神の思いは人の思いよりもはるかに高く、最終的に神の栄光を現わすものだからです。

#### 2、 マルタは何を知っていましたか？

(ヨハネ 11 : 22-24) しかし、あなたが神にお求めになることは何でも、神があなたにお与えになることを、私は今でも知っています。」イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」マルタはイエスに言った。「終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることは知っています。」

(解説) マルタは、イエスが求めるものは何でも神が与えてくださること、また終わりの日にラザロがよみがえることを知っていると言いました。神の教えを、聖書知識的、教理的に、頭ではよく知っていました。しかし彼女は、その神の教えが、今彼女が直面しているその問題のために有効である、ということは知りませんでした。私たちも「神は全能であり何でもできる」と知って、信じてもいます。ではあなたが今悩んでいるその問題を、神は解決することができる、あなたは信じますか？・・・聖書知識を頭で知っているのと、実際にみことばを信頼して歩んでいるのとでは、天と地ほどの差があるのです。

#### 3、 イエスはマルタに、何を信じるかと聞きましたか？

(ヨハネ 11：25-27) イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」彼女はイエスに言った。「はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております。」

(解説) イエスはよみがえりであり、いのちなる方です。このお方を信じる者は死んでも生きています。だから、もしイエスが願うなら、終わりの日にではなく現代の今日でも、死んだ者を生き返らせることができます。そのことを信じるか、とイエスはマルタに問いました。しかしマルタは、ただ教理問答的に「私はイエスが神の子キリストであると信じます」と答えただけで、実際に今この場でラザロが生き返るとは信じませんでした。イエスは今も私たちにこう問いかけます。「あなたはわたしを頭だけで信じるのか？それとも心から信頼するのか？」

#### 4、 イエスは、なぜ涙を流されましたか？

(ヨハネ 11：33-38) イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になった。そして、霊に憤りを覚え、心を騒がせて、「彼をどこに置きましたか」と言われた。彼らはイエスに「主よ、来てご覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか。」しかし、彼らのうちのある者たちは、「見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかつたのか」と言った。イエスは再び心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓は洞穴で、石が置かれてふさがれていた。

(解説) イエスは、マリアや一緒にいた人たちが泣いているのを見て、霊に憤りを覚えた、と書いてあります。しかしこの「憤り」と訳されているこの言葉は、元の言語では「霊が激しく動く」とか「うめく」という意味です。イエスは、愛する者が死んで悲しんでいる彼女たちの感情を共に感じて、あわれみと心の激しい痛みを感じたのでしょう。それでイエスは彼女たちと共に涙を流されたのです。イエスもラザロを愛し、彼女たちを愛していたからこそ、彼女たちの感情を深く理解し、共感し、寄り添うことができたのです。これはイエスが彼女たちに対して憤って、怒っていたからではありません。愛する家族が死んで悲しんで泣いているのに対して、憤ってさばくような人が、一体いるのでしょうか。イエスはそんな人間の気持ちが分からない、情のない残酷で冷たい方では決してありません。しかしある者は「この方もラザロが死なないようににはできなかつたのか」と言ってさばきました。そのような不信仰な人々の心ない言葉には、心に憤りを覚えました。そして人間を死に追いやる罪とサタンに対しても、やはり激しい憤りを覚えたことでしょう。・・・イエスは感情を持つお方です。イエスはあなたを深く愛しておられるので、あなたが悲しむときに共に悲しみ、共に泣いてくださるお方なのです。信仰とは、何の感情も伴わない「冷たい正統教理」を信じることではありません。イエスを信じるということは、感情あふれる愛の交わりなのです。

#### 5、 イエスは何について父に感謝しましたか？

(ヨハネ 11 : 41) そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた。「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。

(I ヨハネ 5 : 14-15) 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるとのこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。

(解説) イエスは父なる神に、願いを聞いて「くださった」ことを感謝しました。まだラザロがよみがえる前に、です。もし本当に願いが聞かれたと心から信じているなら、それが実際にはかなえられる前から感謝できます。だから感謝は大変強力な信仰の宣言なのです。私たちは何か祈るときに「主よ、どうかこうしてはくださらないでしょうか？」という感じで嘆願してはいませんか？もし私たちが御心になうことを祈っているのなら、確信を持って、事前に、すでにかなえられたと感謝宣言すべきです。そのような攻める祈りこそが、敵が見せている偽りの状況を打ち砕くのです。

## 6、 誰が神の栄光を見ますか？

(ヨハネ 11 : 40-44) イエスは彼女に言われた。「信じるなら神の栄光を見る、とあなたに言ったではありませんか。」そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて言われた。「父よ、わたしの願いを聞いてくださったことを感謝します。あなたはいつでもわたしの願いを聞いてくださると、わたしは知っておりましたが、周りにいる人たちのために、こう申し上げました。あなたがわたしを遣わされたことを、彼らが信じるようになるために。」そう言うってから、イエスは大声で叫ばれた。「ラザロよ、出て来なさい。」すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたまま出て来た。彼の顔は布で包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」

(解説) イエスを信じるなら、イエスは父なる神が遣わした本当の神の御子であることを心から信頼するなら、私たちは神の栄光を見ます。では、ここで言う「神の栄光」とは、何でしょうか？ラザロが生き返った、その奇跡のことだけでしょうか？いいえ、それだけではなく、その奇跡を通して、イエスがどんな方であるかを私たちがさらに深く知り、もっと強く心からイエスを信じるようになって、神のすばらしさを知ることが、私たちを通してさらに多くの人々に広がっていくこと、それこそが神の栄光です。あなたは今、何の問題に直面しているのでしょうか？イエスはこう言われます。「信じるなら神の栄光を見る、と言ったではありませんか。」あなたが感謝をもって信仰を宣言するときに、あなたは神の奇跡を見て、神の栄光、神の本当のすばらしさを、実生活で体験するようになるでしょう。

## 7、 あなたは、どうしたら神の栄光を見ることが出来ますか？

## 第14章

### どんな人が豊かな実を結びますか？（ヨハネ12章）

#### 1、 マリアは、なぜナルドの香油をイエスの足に塗りましたか？

（ヨハネ12：3） 一方マリアは、純粋で非常に高価なナルドの香油を一リトラ取って、イエスの足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった。家は香油の香りでいっぱいになった。

（ヨハネ12：7） イエスは言われた。「そのままさせておきなさい。マリアは、わたしの葬りの日のために、それを取っておいたのです。」

（解説） イエスは私たちのいのちを救うために、十字架で死んで葬られようとしています。そのイエスに対して、マリアは自分の持っている一番高価なものを、惜しみなくささげました。イエスを愛しているから、イエスの愛に応えようとして、一番大切なものをささげたのです。イエスはあなたを愛しているので、あなたを救うために十字架で自分のいのちをささげました。あなたはその愛にどう応えますか？あなたはイエスに何をささげますか？

#### 2、 イエスが栄光を受ける時とは、いつのことですか？

（ヨハネ12：16） これらのことは、初め弟子たちには分からなかった。しかし、イエスが栄光を受けられた後、これがイエスについて書かれていたことで、それを人々がイエスに行ったのだと、彼らは思い起こした。

（ヨハネ12：23） すると、イエスは彼らに答えられた。「人の子が栄光を受ける時が来ました。」

（ヨハネ12：27-28） 「今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ、この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ。父よ、御名の栄光を現してください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう。」

（解説） 人間的な見方では、イエスが王としてエルサレムに入り、群衆がホサナと叫んでイエスを迎えた時が、栄光を受けた時のように思えます。しかしイエスが言う「人の子が栄光を受ける時」というのは、イエスが十字架で死なれて復活し、天の父のみもとに行く、その時を指しています（ヨハネ13：1）。イエスにとっては、人々から称賛されることが栄光なのではなく、父なる神から称賛されることが栄光なのです。イエスは十字架の死を前にして恐れおののき、心が騒いでいました。父なる神に「この死の時から私を救ってください」と言うこともできました。しかしイエスは、十字架で死んで人類の罪を贖うためにこそ、この時に至ったのです。その父の御心と目的を十分よく分かっていたので、イエスは「御名の栄光を現してください」と祈りました。・・・私たちも恐れや悩みで心が騒ぐときがあります。そのときにあなたは「この恐れから救ってください」と祈るでしょうか。それとも「こ

の状況の中で主の栄光を現してください」と祈るでしょうか？神の栄光を人生の目的とするときに、私たちは恐れや悩みに立ち向かって行くことができるのです。

### 3、 議員たちは、なぜイエスをはっきりと告白しませんでしたか？

(ヨハネ 12 : 42-43) しかし、それにもかかわらず、議員たちの中にもイエスを信じた者が多くいた。ただ、会堂から追放されないように、パリサイ人たちを気にして、告白しなかった。彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである。

(ルカ 6 : 26) 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。

(マタイ 10 : 32-33) ですから、だれでも人々の前でわたしを認めるなら、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人々の前でわたしを知らないと言う者は、わたしも、天におられるわたしの父の前で、その人を知らないと言います。

(解説) その議員たちは、自分がイエスを信じると告白したら、パリサイ人たちが自分を会堂から追放して、自分は今の地位や名誉を失うのではないかと恐れました。彼らは神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したので、公に告白できなかったのです。しかしイエスは、もし人々の前でイエスを否定するなら、イエスも天の父の前でその人を否定すると言いました。もしそうなるとしたら、地上で人々からどんなに認められたとしても、何の意味があるでしょう。私たちが人々からほめられることを愛するなら、神からの栄誉を受けることはできないのです。

### 4、 どんな人が豊かな実を結び、父に重んじられますか？

(ヨハネ 12 : 24-26) まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいるところに、わたしに仕える者もいることになります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます。」

(マタイ 10 : 38-39) 自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。自分のいのちを得る者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを得るのです。

(ガラテヤ 2 : 19-20) 私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

(解説) 自分に死んでイエスに仕えるなら、豊かな実を結び、父から重んじられます。イエスは一粒の麦のように、地に落ちて死なれました。しかしその十字架の死によって、多くの人々のいのちを救い、豊かな実を結びました。私達も、キリストと共に十字架につけられ自分に死ぬのなら、キリストが私

の内に生きてくださいます。そのときに主が私たちの人生の内に御霊の実、そして多くの伝道の実を結んでくださるのです。イエスに仕える者とは、イエスのいる所に一緒について行く者です。イエスの行く道とは、十字架の道、自分に死ぬ道です。だからイエスに従う者は、この世で自分のいのちを憎み、自分の十字架を負って、生涯イエスについて行きます。そのような者は、天の父なる神から重んじられ、報いを受けて、永遠のいのちに至ります。この地で主のためにいのちをささげて、天で主から認められる者は、何と幸いなのでしょうか！

5、 あなたが豊かな実を結ぶためには、どうしたら良いですか？

## 第 15 章

### どうやって愛しますか？ (ヨハネ 13 章)

1、 イエスは世にいるご自分の者たちを、どのように愛しましたか？

(ヨハネ 13 : 1) さて、過越の祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後まで愛された。

(解説) イエスはご自分の弟子たちを、最後の極みまで、この上なく愛し抜いて、その愛を残るところなく示されました。イエスはご自分の時、つまりこの世を去って天の父のみもとに行く、その時が近づいて来たことを知っていました。だから残りの人生の限られた時間の中で、一番大切なこと、今一番やるべきことをしました。それは彼らを、最期の瞬間まで、変わらずに愛していると示し続けることでした。誰でも死ぬ直前に「自分の築いた財産を、業績や地位をもう一度見ておきたい」というような人はいません。愛する家族、一番近くにいる愛した人に最期まで看取られて、変わらない愛を確認し合うことを求めるものです。なぜならそれが人生で一番大切なこと、死後も相手の心の中にずっと残るものだからです。もしあなたの人生が残りあと 1 日しかないとしたら、あなたは何をしますか？ 後回しにして後悔する前に、今日の今、その一番大切なことをしてください。

2、 イエスは、なぜ弟子たちの足を洗いましたか？

(ヨハネ 13 : 14-15) 主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。

(解説) 主であり師であるイエスが弟子たちの足を洗ったのは、彼らに模範を示すため、彼らも互いに足を洗い合うようにするためでした。このとき弟子たちは、自分たちの中で誰が一番偉いかを議論していました。だからイエスは、一番偉い人は皆に仕える者となるのだと、実際にやってみせたのです(ルカ 22:24-27)。もしあなたの先生が、あなたの足を洗ってくれたら、あなたはどう感じますか？あなたは他の人の足を洗ってあげたことがありますか？本当のリーダーは、しもべとなって仕える人です。それこそが「仕えるリーダーシップ」なのです。

### 3、 どのようにする者が、幸いですか？

(ヨハネ 13:17) これらのことが分かっているなら、そして、それを行うなら、あなたがたは幸いです。

(解説) 「これらのこと」つまり互いに仕え合うべきことが分かっていて、しかもそれを行うなら、その者は幸いです。しかし頭で分かっているにもかかわらず実際にそれを行わなければ、何の祝福もありません。互いに愛し仕え合うべきだと、私たちはみな聖書知識としては十分知っているはずですが、では、あなたはそれを行っていますか？・・・愛とは、口先だけでは意味がありません。実際に行動によって示すものです。愛を行動に移したそのときにこそ、祝福を受けるのです。

### 4、 イエスはどんな心で「一人がわたしを裏切る」と言いましたか？

(ヨハネ 13:21) イエスは、これらのことを話されたとき、心が騒いだ。そして証しされた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」

(解説) イスカリオテのユダが裏切ることを告げたとき、イエスの心は騒ぎました。心が激しく痛み、ひどく悲しみながら、そのことを話しました。なぜなら、イエスはユダを愛しているからです。自分が心から愛して、良くしてやった者から裏切られるとは、どんなに心傷つき、つらかったでしょう。「どうしてお前が……」という悔しさ、怒り、嘆き、失望、口では表現できないほどの様々な感情が渦巻いていたことでしょう。敵だと思っている人から攻撃されても、それほど傷つきません。しかし愛する者、近くにいた者から裏切られるとき、心は激しく騒ぐのです。しかしイエスは、自分が裏切られると知っていても、ユダを愛することをやめませんでした。彼の悔い改めを願いつつも、変わらぬ愛をもって接し続けたのです。何という忍耐強い愛でしょう！

### 5、 イエスは弟子たちに、どのように愛しなさいと命じましたか？

(ヨハネ 13:34) わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

(解説) イエスは、ご自分が弟子たちを愛したように、弟子たちも互いに愛し合うように命令しました。ではイエスは弟子たちをどのように愛したのでしょうか？イエスは彼らを、最後の最後まで愛しました。足を洗ってしもべとして仕えました。口先だけでなく、実際に行動によって愛を示しました。たとえ裏切られると分かっているにもかかわらず、変わることなく愛し続けました。これがイエスの愛です。この愛の基準、主イエスの絶対無条件的な愛のレベルをもって、互いに愛し合うように、私たちは命令されているのです。イエスが愛したように愛する、というのは、そういう意味です。このような高い基準の愛は、人間的な力では決して出て来ません。だからイエスはまず、そのような愛で私たちを愛してくださいました。イエスの愛を受けた者は、その愛で他の人を愛せるようになります。イエスの無条件の愛を体験すればするほど、あなたも他の人をそのように愛する者へと変えられて行くのです。

## 6、 私たちの互いの間に愛があるなら、それによって、どのようになりますか？

(ヨハネ 13 : 35) 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

(解説) イエスが愛したように私たちも互いに愛し合うなら、それによって世の中の全ての人々が「彼らは本当にイエスの弟子だ」と認めるようになります。未信者の人たちでさえ「あそこには本物の愛がある」と認めて、その共同体に加わり、イエスの愛を体験して、彼らもイエスの弟子とされていきます。これこそが本当の弟子づくりです。弟子訓練というのは、何か一定期間のプログラム・コースではありません。単なる知識的勉強、テクニック習得でもありません。弟子づくりとは、愛することです。イエスが愛したように、最後まで仕えて、行動で示し、たとえ離れて行くような人でも忍耐強く愛を与え続けることです。本物の愛だけが、人の人生を変えます。だから愛することをあきらめないでください。あなたがイエスのように愛し続けていくときに、人々は神の愛を知り、あなたを通して多くの人々がイエスの弟子へと変えられて行くと信じます。

## 7、 私たちは互いに、どのように愛するべきでしょうか？

## 第 16 章

### 心を騒がせてはなりません (ヨハネ 14 章)

#### 1、 弟子たちは、なぜ心を騒がせていましたか？

(ヨハネ 14 : 1) 「あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。

(ヨハネ 14 : 5) トマスはイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのか、私たちには分かりません。どうしたら、その道を知ることができるでしょうか。」

(解説) このとき弟子たちは、イエスがどこへ行くのか分からなかったので、心が騒いでいました。自分たちの先生がどこかへ行ってしまったら、自分たちはどうなるのだろうと思って、心配したのです。将来どうなるか、今何をすべきか分からなくなってしまうとき、私たちは心が騒ぎ、心配します。しかし、そんな私たちに対してイエスは、神とご自身を信じなさいと命じています。イエスを信頼するときに、私たちの心は治まるのです。

#### 2、 イエスはどこに行つて、何を用意しますか？

(ヨハネ 14 : 2-3) わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかったら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

(解説) イエスは父の家、父のみもと、天に行つて、私たちが住むための場所を用意すると言いました。その目的は、天の父なる神と御子イエスが共に住むその所に、私たちもいるようにするためです。父の家は、父と御子が永遠に愛の交わりをしている所で、そこには何の心配も、恐れも、悲しみも孤独もありません。全てが完全に満たされています。主が私たちと共にいるなら、もう何も心配することはありません。私たちは、そのような天の交わりに今、招かれているのです。

#### 3、 どうしたら、父のみもとに行くことができますか？

(ヨハネ 14 : 6) イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

(解説) イエスだけが父のみもとに行くただ一つの道です。イエスを信頼してより頼むときに、父の家の交わりに今、入ることができます。イエスを通してでなければ、父のみもとにある全ての救い、祝福、平安を受けることができません。しかし、もし私たちが他のもの、例えば自分の力、知識や経験、

お金、他の人などに頼るなら、心が騒ぎ始めるのです。

#### 4、 父は何のために聖霊を与えて下さいますか？

(ヨハネ 14 : 16-18) そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにして下さいます。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。あなたがたのところに戻って来ます。

(解説) 父なる神が聖霊様を与えてくださる目的は、聖霊様がいつまでも永遠に、私たちと共にいるようにするためです。イエスを信じるときに聖霊様が私たちの内に住まわれるようになるので、私たちはもう孤児ではなく、神の子ども、神の家族なのです。聖霊様は助け主、とりなし手と呼ばれています。聖霊様は私たちの心の思い煩いを聞いてくださり、そのことを父なる神にとりなして下さいます。そして私たちが祈れるように助け、慰め、励まし、導いて下さいます。この聖霊様が共にいるのなら、私たちはなぜこれ以上、心を騒がせる必要がありましょうか！

#### 5、 イエスは、どのような人にご自身を現しますか？

(ヨハネ 14 : 21-23) わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です。わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します。」イスカリオテでないほうのユダがイエスに言った。「主よ。私たちにはご自分を現そうとなさるのに、世にはそうならないのは、どうしてですか。」イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

(解説) イエスの戒めを保ち、守る人、イエスを愛する人に、イエスはご自身を現して下さい。イエスを本当に信頼し愛するなら、イエスのことばを守るようになります。そうすれば、父の家に共に住み続け、その愛で安らぐことができます。しかしみことばを守らないなら、主の平安を得ることはできません。世の心配から解放されたいのなら、みことばに従うことを選択しなければならないのです。

#### 6、 私たちは、なぜ心を騒がせてはなりませんか？

(ヨハネ 14 : 26-27) しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせて下さいます。わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます。わたしは、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。

(解説)「心を騒がせてはならない」というのは、主イエスの命令です。命令とは、従っても従わなくてもいいものではなく、必ず従わなければならないものです。従わないことは罪です。つまり心を騒がせることは、主の命令に従わない罪なのです。だから私たちは、自分の状況や問題が解決しているかいないかに関係なく、自分から意識的に、心配をストップさせなければならないのです。主の命令に従うことを選択したときに、心に主の平安が訪れます。イエスの平安は、世が与えるような、一時的な気休めではありません。イエスが与える平安は、父の家から来る本当の平安です。聖霊様が心の内を治めてくださり、全てのことを教え、みことばを思い起こさせ、最善へと導いてくださいます。そのことを知れば知るほど、私たちは「心を騒がせるな」という主の命令に従うことができるようになるのです。

## 7、 平安を得るために、あなたはどうしたら良いですか？

# 第 17 章

## 愛の関係 (ヨハネ 15 章)

### 1、 父なる神は、なぜ刈り込みをしますか？

(ヨハネ 15 : 2-3) わたしの枝で実を結ばないものはすべて、父がそれを取り除き、実を結ぶものはすべて、もっと多く実を結ぶように、刈り込みをなさいます。あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、すでにきよいのです。

(解説) ここでは、父なる神は農夫、御子イエスはぶどうの木、私たちは枝として、たとえて話しています。父なる神は私たちがもっと多くの実を結ぶようになるために、みことばによって刈り込みをして、私たちをきよめます。心の中にある罪が、みことばによって切り取られるときには、大きな痛みが伴います。しかし、それによって心がきよめられた後は、御霊の実をもっと多く豊かに結べるようになるのです。

### 2、 どうすれば、実を結ぶことができますか？

(ヨハネ 15 : 4) わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

(15:5) わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができな

いのです。

(15:6) わたしにとどまっていなければ、その人は枝のように投げ捨てられて枯れます。人々がそれを集めて火に投げ込むので、燃えてしまいます。

(15:7) あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

(15:8) あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。

(15:9) 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。

(15:10) わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

(解説) ぶどうの木であるイエスにとどまるなら、枝である私たちは実を結びます。しかしイエスにとどまらずに離れていては、私たちは実を結ぶことはできず、何もできません。ではイエスにとどまるとは、どういう意味でしょうか？それは、イエスのみことばが私たちの内にとどまる、ということです。

(15:7)。「互いに愛し合いなさい」というイエスの戒めを守るなら、イエスの愛にとどまります。そうすれば、求めるものがかなえられ、多くの実を結びます。そしてイエスの弟子となって、神の栄光を現すようになるのです。

### 3、 イエスを私たちは、どのような関係ですか？

(ヨハネ 15 : 13-15) 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

(解説) イエスは私たちを友と呼びました。しもべと友は、どう違うのでしょうか？しもべは主人が何をするのか、その心を知らないので、言われたことを義務的にやるだけです。しかし友は相手の心を知り、愛しているので、その人のためなら喜んで、自分から進んで何でもします。イエスは私たちを友と呼んで、私たちのために十字架でいのちを捨ててくださいました。こんな偉大な愛は、イエス以外には誰も持っていません。その主の愛を知るときに、私たちは感動して、イエスの命じることなら何でも喜んで行うようになります。これがイエスと私たちの親密な友情関係、愛の関係なのです。

### 4、 誰が私たちを選びましたか？

(ヨハネ 15 : 16) あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

(Iヨハネ4:10) 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

(解説) イエスがまず最初に私たちを選びました。私たちがまだイエスを選んでいないとき、世界の基が据えられる前から、イエスは私たちを恵みによって選び出しました。私たちがイエスを愛するずっと前から、イエスは私たちを一方的に愛し、私たちの罪のために、ご自身のいのちを十字架でささげました。その愛が分かったとき、私たちもイエスの愛に応答して、イエスを愛し従うことを選択するようになるのです。

## 5、 この世と私たちは、どのような関係ですか？

(ヨハネ15:19) もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。

(Iヨハネ2:15-17) あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢は、御父から出るものではなく、世から出るものだからです。世と、世の欲は過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠に生き続けます。

(ヤコブ4:4) 節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。

(解説) 私たちはこの世のものではないので、世は私たちを憎んで迫害するようになります。私たちは世の中に存在するけど、世に属する者ではありません。もし世のものを愛するなら、その人の内に御父への愛は無く、神に敵対する者になってしまいます。イエスを愛するのであれば、世にあるもの、すなわち肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢を愛してはなりません。それらのものは全て一時的で、過ぎ去って行くものだからです。しかし、神を愛してその御心を行う者は、永遠に生き続けるのです。

## 6、 イエスと一緒にいたら、何をできるようになりますか？

(ヨハネ15:26-27) わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてください。あなたがたも証しします。初めからわたしと一緒にいたからです。

(解説) イエスと一緒にいたら、助け主なる真理の御霊と共に、私たちもイエスについて証しするようになります。イエスを信じる者にはキリストの御霊が内住します。その聖霊の力に満たされるとき、私たちはキリストの証人となります。私たちは世の中の罪は憎みますが、世の人々のたましいは愛します。そして彼らの救いのために祈り、キリストを証しします。では、どうやって証しするのでしょうか？それは、キリストの一方的な愛、友のためにいのちを捨てた十字架の愛をもって、その失われたた

ましいを愛するのです。そうするときに、私たちはイエスの戒めを守り、イエスの愛にとどまって、多くの救いの実を結ぶようになるでしょう。

7、 あなたとイエスが愛の関係にあるなら、あなたの生活はどう変わりますか？

## 第 18 章

### 御霊によって勝利した (ヨハネ 16 章)

1、 イエスが去って行くことは、なぜ弟子たちの益になりますか？

(ヨハネ 16 : 7) しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのです。去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はおいでになりません。でも、行けば、わたしはあなたがたのところに助け主を遣わします。

(解説) イエスがこの世を去って天に行くと、助け主なる聖霊様が私たちの所に遣わされます。このとき弟子たちは、イエスが去った後に迫害が起こると告げられて、心が悲しみでいっぱいになっていました。イエスは地上では肉体を持っておられるので、一つの場所に一定期間しか、いることができません。しかし聖霊様は霊なので、いつでもどこでも、私たちと一緒にいることができます。だから、私たちがどんなに苦しいときでも、どんな状況にいても、世の終わりまでいつも共にいます。決して離れず、見捨てず、常に私たちを助け、守り、導いてくださいます。だから、イエスが去って聖霊様が来られるほうが、私たちにとって益となるのです。

2、 御霊が来ると、何をしてくださいますか？

(ヨハネ 16 : 8-14) その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかになさいます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。あなたがたに話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐えられません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導いてくださいます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことをすべて語り、これから起こることをあなたがたに伝えてくださいます。御霊はわたしの栄光を現されます。わたしのものを受けて、あなたがたに伝えてくださるのです。

(解説) 聖霊様が来ると、罪、義、さばきについて、世の誤りを明らかにします。世はイエスを信じないから、何が罪なのか分かりません。しかし聖霊様は、救い主イエス・キリストを信じないこと自体が神に対する罪なのだ、ということをつかからせます。義についても同様です。イエスが父のもとに行くとき、聖霊様が遣わされるので、何が義で何が悪なのか、その神の基準が分かるようになります。さばきについては、この世を支配する者であるサタンが、イエスの十字架と復活によって敗北し、さばかれたということが、聖霊様によって分かります。これらのことは弟子たちにはまだ分からなくて、話しを聞いても耐えられませんでした。しかしイエスが復活した後、五旬節の日に聖霊様が降って来たときに、弟子たちは悟りました。真理の御霊が弟子たちを全ての真理に導き、これから起こること、救いのご計画の全体を伝えて、理解させてくださいました。このようにして聖霊様は、御子イエスの栄光、イエスの救いの偉大さを、私たちにも現してくださいました。

### 3、 どのようにしたら、悲しみは喜びに変わりますか？

(ヨハネ 16 : 20-22) まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜びます。あなたがたは悲しみます。しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。女は子を産むとき、苦しみます。自分の時が来たからです。しかし、子を産んでしまうと、一人の人が世に生まれた喜びのために、その激しい痛みをもう覚えていません。あなたがたも今は悲しんでいます。しかし、わたしは再びあなたがたに会います。そして、あなたがたの心は喜びに満たされます。その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

(解説) 弟子たちがイエスに再び会うとき、死から復活したイエスに出会うとき、悲しみは喜びに変わります。女は子を産むとき苦しみますが、産んでしまうと、喜びのあまりその激しい痛みを忘れてしまいます。それと同じように、私たちはこの世にあっては苦しみや悲しみがありますが、イエスを信じて聖霊様に満たされると、心が喜びに満ちあふれて、世の苦しみを超越してしまいます。その喜びは何者も、サタンでさえも、私たちから奪い去ることはできません。

### 4、 どうやって求めたら、受けることができますか？

(ヨハネ 16 : 23-24) その日には、あなたがたはわたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことがありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。

(ローマ 8 : 34) だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

(ローマ 8 : 26-27) 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神の

みこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

(Iヨハネ5:14-15) 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるとのこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。

(解説) イエスの名によって祈り求めるなら、御父は与えてくださいます。では、イエスの名によって祈る、とはどういう意味でしょうか？単なる祈りの形式でしょうか？いいえ、そうではありません。イエスはこの地を去って天に上られた後、父なる神の右の座に着いて、私たちのためにとりなして下さいます。そして聖霊様を遣わし、その方が私たちに何をどう祈ったらよいか教え、御心に従って祈れるように助け、とりなします。だからイエスの名によって祈るといのは、イエスのとりなしを通して父なる神のみもとに行き、聖霊様の助けにより御心に従って祈る、という意味です。そのようにして祈るなら、神はその願いを聞いてくださるのです。

## 5、 どうしたら世の中の苦難に勝つことができますか？

(ヨハネ16:33) これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」

(Iヨハネ4:4) 子どもたち。あなたがたは神から出た者であり、彼らに勝ちました。あなたがたのうちにおられる方は、この世にいる者よりも偉大だからです。

(Iヨハネ5:4-5) 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

(解説) 私たちはみな、世にあっては苦難があります。サタンは今もこの世を不法に支配していて、私たちに苦しめ、滅ぼそうとしています。しかしイエスは十字架と復活によって、罪と死とサタンに勝利しました。イエスはこのとき十字架にかかる前なのに「すでに世に勝ちました」と大胆に宣言しています。そしてその後、信仰によって宣言した通りに、実際に勝利を収められました。この勝利者なるイエス・キリストは、今日もキリストの御霊として、信じる者と共におられます。私たちの内におられる聖霊様は、この世にいる者、サタンよりも、ずっと強く偉大です。だからイエスは私たちに、勇気を出しなさいと命じています。このイエスを神の御子と信じる者は、その信仰によって世に打ち勝ちます。聖霊の力に満たされるときに、悲しみは喜びに変わり、祈りは応えられ、みことばによって平安を回復し、信仰によって苦難に勝利することができるのです。

## 6、 あなたはどうやって苦難に勝利しますか？

## 第19章

### 一つにしてください (ヨハネ 17 章)

#### 1、 永遠のいのちとは、何ですか？

(ヨハネ 17:3) 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

(I ヨハネ 5:20) また、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことも、知っています。私たちは真実な方のうちに、その御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。

(解説) 永遠のいのちとは、今の地上の命がずっと長く続くことではありません。また死んでから与えられるものでもありません。永遠のいのちとは、父なる神と御子イエス・キリストを「知る」ことです。知る、というのは、単に頭の知識で知るのではなく、夫婦関係のように互いに親しく知る、体験的で親密な愛の交わりを意味します。神がどんな方であるかを知らせるために、御子イエスが世に遣わされました。イエスを知るときに、私たちは唯一のまことの神を知ることができます。イエスを信じて親しく交わるとき、私たちはイエスの愛の内にとどまります。イエスにとどまるときに、イエスの内にある全ての祝福、救い、いのち、権威、いやし、解放、勝利・・・全てを得ます。それらを今、この地上生活で得るだけではなく、天国でも永遠に味わうのです。このイエス・キリストこそ、永遠のいのちそのものであるお方です。永遠のいのちを得る、というのは、このイエスを知って交わることにより、イエスの内にある全てのものを得る、という意味なのです。

#### 2、 イエスは、弟子たちが一つになるために、どのように祈りましたか？

(ヨハネ 17:11-12) わたしはもう世にいらなくなります。彼らは世にいますが、わたしはあなたのもとに参ります。聖なる父よ、わたしに下さったあなたの御名によって、彼らをお守りください。わたしたちと同じように、彼らが一つになるためです。彼らとともにいたとき、わたしはあなたが下さったあなたの御名によって、彼らを守りました。わたしが彼らを保ったので、彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためでした。

(解説) 父と御子が一つであるように、弟子たちも一つとなるために、父の御名によって弟子たちを守り保ってください、とイエスは祈りました。父の御名は「わたしはある」という神ご自身の啓示です。イエスが「わたしはある」というお方、父と一つである方、御子なる神であることを信じる者は、いのちの内を守られ、救いを保ちます。そして私たちがイエスを知ってイエスと一つになるときに、父と御子の交わりの中に、私たちが参加するようになります。そのように主との交わりを保つ者同士は「主にあって」一致できます。しかし主との交わりを保たずに、人間的、組織制度的に一致しようとしても、う

まくいきません。主との交わりを保ち続ける者は、主にある弟子たちとの一致を保ち、決して滅びることなく、永遠のいのちを味わい続けるのです。

### 3、 私たちは何によって聖別されますか？

(ヨハネ 17：14-17) わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。わたしがお願いすることは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です

(解説) 真理のみことばによって、私たちは世から聖別されます。イエスを信じる者は世から取り去られるのではなく、悪い者が支配するこの世の中で、聖く生きていかなければなりません。私たちは世のものではないので、世は私たちが憎み、迫害します。だからイエスは私たちに、ご自身のみことばを与えてくださいました。みことばの真理に従って生きるときに、私たちはきよめられ、世とは聖別された生活をすることができます。そうするとき私たちが主と一つになり、主を信じる者同士も一つとなって、世に対して証ししていくことができるのです。

### 4、 私たちが一つになるときに、世はどうなりますか？

(ヨハネ 17：20) わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。

(21) 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。

(22) またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

(23) わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。

(24) 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

(解説) イエスはご自分の弟子たちのためだけでなく、弟子たちによってイエスを信じる人々のため、つまり今の私たちのためにも祈っています。父が子の内に、子が父の内にいるように、全ての人々が父と子の内にあるように一つになるように、と祈っているのです。私たちが主にある一つになるときに、世はイエスを信じるようになるからです。イエスは今、父のみもと、父の家に行こうとしていま

す。その父の家に私たちもいるようにすることが、イエスの願いです。私たちは地上にいらながらも、主と一つになることによって父の家の交わりに参加できます。私たちは父の家で、父がイエスを愛されたように、私たちのことをも愛しておられる、ということを経験します。そのときイエスの栄光、世界の基が据えられる前から父がイエスに与えたその栄光を、私たちは見るのです。そうして私たち信者が主にあって互いに愛し合い一つになるとき、この世の人々は主の愛を知り、その中に主の栄光を見て、主を信じるようになります。これこそがイエスの願いであり、祈りなのです。

5、 私たちは、どうしたら一つになることができますか？

## 第 20 章

### 何のために生まれましたか？ (ヨハネ 18 章)

1、 イエスは、ご自分に起ころうとしていることを知っていましたか？

(ヨハネ 18 : 4) イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたので、進み出て、「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。

(解説) イエスは、ユダヤ人たちがご自分を捕まえて死刑にさせようとしていることを、前もって知っていました。それなのになぜ、それを避けようとしなかったのでしょうか？それは、自分が全人類の全ての罪の身代わりとなって十字架で死ぬことが、私たちを救うことになる、と知っていたからです。イエスは不本意に殺されたのではなく、自分からすすんで死を選びました。イエスの貴い犠牲の死のおかげで、私たちはいのちを得たのです。

2、 「父が下さった杯」とは何ですか？

(ヨハネ 18 : 11) イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を飲まずにいられるだろうか。」

(解説) 父が下さった杯とは、父の御心に従って十字架で死ぬことを意味します。イエスはゲッセマネの園で、苦しみながらこう祈りました。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」

(マタイ 26 : 39) それはイエスにとって苦い杯でした。しかしその杯を飲むことが御心であると知っていたので、それを拒まずに受け入れました。自分の願い通りではなく、父の御心に従って、十字架で

死なれました。このイエスの従順によって、父の御心は成されました。一人の従順によって多くの人が義とされるといふ、御父の大いなる救いのご計画が成就したのです。

### 3、 ペテロは、なぜイエスを否定しましたか？

(ヨハネ 18 : 17) すると、門番をしていた召使いの女がペテロに、「あなたも、あの人の弟子ではないでしょうね」と言った。ペテロは「違う」と言った。

(ヨハネ 18 : 25-27) さて、シモン・ペテロは立ったまま暖まっていた。すると、人々は彼に「あなたもあの人の弟子ではないだろうね」と言った。ペテロは否定して、「弟子ではない」と言った。大祭司のしもべの一人で、ペテロに耳を切り落とされた人の親類が言った。「あなたが園であの人と一緒にいるのを見たと思うが。」ペテロは再び否定した。すると、すぐに鶏が鳴いた。

(解説) ペテロは、自分がイエスの弟子だと知られると、自分も捕まって殺されるかと思って恐れました。それで「自分はイエスの弟子ではない」と言って否定しました。この直前の最後の晩餐のとき、ペテロは「たとえあなたと一緒に死ななければならぬとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません」と言っていました (マタイ 26 : 35)。しかし実際に自分の命が危うい状況になったら、イエスを否定したのです。・・・しかし私たちは、ペテロのことを批判できるのでしょうか？もし私たちがそのような状況の中にいたら、やはり同じようになる可能性は、十分にあるのではないのでしょうか？私たちは誰も他人を批判することはできません。人は誰でも弱いものです。誰でも失敗することがありうるのです。だからこそ、私たちには聖霊の力が必要です。五旬節の日に聖霊が降った後、ペテロは迫害も死も恐れずに、イエスを大胆に証しする者へと変えられたのです。

### 4、 誰がイエスの代わりに釈放されましたか？

(ヨハネ 18 : 39-40) 過越の祭りでは、だれか一人をおまえたたちのために釈放する慣わしがある。おまえたちは、ユダヤ人の王を釈放することを望むか。」すると、彼らは再び大声をあげて、「その人ではなく、バラバを」と言った。バラバは強盗であった。

(解説) ピラトはイエスを釈放しようとしたのですが、ユダヤ人たちは、イエスではなくてバラバを釈放するように要求しました。バラバは強盗の罪で死刑になるはずだったのに、釈放されました。何の罪もないイエスが死刑にされて、イエスの代わりに罪人のバラバが釈放されたのです。私たちも、このバラバのような者です。本来なら自分の罪のために、死んで地獄の刑罰を受けるべき者でした。しかしその罪人である私たちのために、イエスが身代わりとなって十字架で死なれ、私たちの罪の代価を支払ってくださいました。そのおかげで私たちは釈放され、自由にされました。本当は罪人で死ぬべき者が、罪なき者として認めていただいたのです。大いなる主の恵みに感謝しましょう！

### 5、 真理とは何ですか？

(ヨハネ 18 : 37-38) そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に来ました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」こう言ってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私はあの人に何の罪も認めない。

(ヨハネ 14 : 6) イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。

(解説) イエスは真理について証ししましたが、ピラトは真理が何なのか理解できませんでした。ここで言う真理とは、単に知識的に正しい事実のことではなく、イエス・キリストご自身のことを意味しています。イエスは「わたしが真理なのです」と言いました。イエスは「これが真理である」と教えるよりも、ご自身が真理そのものであると宣言したのです。真理に属する者、つまりイエスに属する者、イエスを信じる者は、イエスの声に聞き従います。真理を知るといのは、真理そのものであるイエス・キリストを知ること、イエスに出会い、親しく交わり、体験的に知るという意味なのです。

## 6、 イエスは何のために生まれ、世に来ましたか？

(ヨハネ 18 : 37) そこで、ピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に来ました。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」

(I テモテ 6 : 12-14) 信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、多くの証人たちの前で素晴らしい告白をしました。私は、すべてのものにいのちを与えてくださる神の御前で、また、ポンティオ・ピラトに対して素晴らしい告白をもって証しをされたキリスト・イエスの御前で、あなたに命じます。私たちの主イエス・キリストの現れの時まで、あなたは汚れなく、非難されるところなく、命令を守りなさい。

(解説) イエスは真理を証しするために生まれ、世に来ました。ピラトの尋問に対して、イエスは「わたしは王です」と、はっきり告白しました。この告白のゆえに、イエスは十字架で殺されることになりました。しかしイエスは、この告白通りのお方、私たちの王の王、主の主であるお方です。初代教会の聖徒たちは「私の主はカイザルではなくイエス・キリストです」という告白のゆえに、迫害され殉教しました。しかし聖霊に満たされて死を恐れずに立ち向かい、火あぶりの刑で燃やされながらも主を賛美しつつ死んでいき、天国に凱旋しました。・・・私たちは何のために生まれ、何のために死ぬのでしょうか？それは私たちの王であるイエス・キリストを証しするためです。イエスが証ししたように、私たちがイエスを大胆に証しして、永遠のいのちを獲得しましょう。

## 7、 あなたは何のために生まれ、世に来ましたか？

## 第 21 章

### イエスはなぜ死んだのですか？（ヨハネ 19 章）

#### 1、 イエスはどのような苦しみを受けましたか？

（ヨハネ 19：1-3）それでピラトは、イエスを捕らえてむちで打った。兵士たちは、茨で冠を編んでイエスの頭にかぶらせ、紫色の衣を着せた。彼らはイエスに近寄り、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、顔を平手でたたいた。

（解説）イエス様は捕らえられて、むちで打たれました。1, 2 回打たれたのではなく、40 回も打たれたのです。その後、兵士たちはイエス様をからかって、顔を平手でたたきました。つばをかけて、あざ笑いしました。……想像して、考えてみて下さい。どんなに痛かったでしょう。肉体的にだけでなく、精神的にもどんなに心痛かったでしょう。この世界の王の王であるお方が、どうしてこのようなひどい苦しみを受けなければならないのでしょうか。誰のために、この苦しみを受けたのでしょうか。……それは、あなたと私のためです。私たちが罪と地獄から救うために、イエス様が身代わりとなって罪の罰を受けたのです。イエス様の下さった救いとは、簡単に与えられたものではありません。大きな犠牲、代価を支払って、私たちに与えられたものなのです。イエス様に対して、どんなに申し訳ないことでしょうか。私たちが、そのイエス様の大きな犠牲を無駄にしてはいけません。イエス様を信じて、その救いの恵みを受け取らなければなりません。

#### 2、 イエスに罪を見つけることができますか？

（ヨハネ 19：6）ピラトは彼らに言った。「おまえたちがこの人を引き取り、十字架につけよ。私にはこの人に罪を見出せない。」

（I ペテロ 2：22-24）キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された。

（解説）総督ピラトでさえ、イエス様について「この人に罪を見出せない」と言いました。それなら、どうしてイエス様は罰を受けたのでしょうか？ 本当であれば、罪のある私たちが罰を受けなければならないはずですが。しかし、そのような罪人である私たちを救うために、罪の一つもないイエス様が、私たちのために死なれて、私たちの罪の借金を代わりに全部支払って下さったのです。十字架の上で流されたイエス様の血潮によって、私たちは罪のきよめ、完全な赦しを受けたのです。だから、そのイエス様の救いを信じて受け入れた人は誰でも、地獄に行かないで天国に行くことができます。これが十字架の奥義なのです。

### 3、 ピラトはなぜ、イエスに死刑判決を下しましたか？

(ヨハネ 19：12-13) ピラトはイエスを釈放しようと努力したがユダヤ人たちは激しく叫んだ。「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルの友ではありません。自分を王とする者はみな、カエサルに背いています。」ピラトは、これらのことばを聞いて、イエスを外に連れ出し、敷石、ヘブル語でガバタと呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

(ヨハネ 12：42-43) しかし、それにもかかわらず、議員たちの中にもイエスを信じた者が多くいた。ただ、会堂から追放されないように、パリサイ人たちを気にして、告白しなかった。彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである。

(解説) ピラトは、イエス様には何の罪もないことを知っていました。ユダヤ人たちがねたみからイエス様を引き渡したことを知っていました(マタイ 27：18)。しかし群衆の言葉を聞いたとき、ピラトは恐れました。「この人を釈放するのなら、あなたはカエサルの友ではありません」という言葉を聞いたとき、ピラトは自分の地位を失うのではないかと心配しました。彼は、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのです。周りの人間関係を恐れると、人は正しい判断を下せなくなります。神よりも人を恐れるなら、神のさばきを受けなければなりません。私たちは、人の言葉よりも、神のことばに従うべきです(使徒 5：29)。神様だけを恐れる人は、周りの人々がどう見るかを恐れずに、勇気を持って選択できるようになります。

### 4、 聖書のことばは、イエスによってどのように成就しましたか？

(ヨハネ 19：24) そのため、彼らは互いに言った。「これは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」これは、「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」とある聖書が成就するためであった。

(詩 22：18) 彼らは私の衣服を分け合い私の衣をくじ引きにします。

(ヨハネ 19：28) それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

(詩 69：21) 彼らは私の食べ物代わりに毒を与え私が渴いたときには酔を飲ませました。

(ヨハネ 19：36, 37) これらのことが起こったのは、「彼の骨は、一つも折られることはない」とある聖書が成就するためであり、また聖書の別のところで、「彼らは自分たちが突き刺した方を仰ぎ見る」と言われているからである。

(詩 34：20) 主は彼の骨をことごとく守りその一つさえ折られることはない。

(ゼカリヤ 12：10) わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。

(黙示録 1 : 7) 見よ、その方は雲とともに来られる。すべての目が彼を見る。彼を突き刺した者たちでさえも。地のすべての部族は、彼のゆえに胸をたたいて悲しむ。

(解説) 聖書は過去のことだけではなく、未来のことも預言して啓示しています。旧約聖書の中で、救い主メシアについてたくさん書かれています。その預言はイエス・キリストにおいて全部成就しています。だからイエス様は、約束の預言の通りに来られた本当の救い主であると言えます。今から将来においても、聖書の預言は成就していきます。終わりの日に地の全ての部族は、主イエスの再臨を自分の目で見ることになります。その日が来る前に、あなたもイエス様を信じなければなりません。

## 5、 イエスはなぜ「完了した」と言われましたか？

(ヨハネ 19 : 30) イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

(エペソ 2 : 8-9) この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることのないためです。

(解説) 「救い」というのは、自分の努力や良い行いによって全くできないときに、他の人の一方的な助けによってのみ救われることを意味します。私たちはどんなに頑張っても、自分の罪を消すことはできません。罪を犯さないように決心しても、またやってしまいます。人間は皆、生まれながらにして罪人です。罪人だから、罪を犯すのです。「良い事をすれば良くなる」と頭で知っていても、実際には良い事できません。悪い事をするので、悪い所、地獄に行きます。だから、良い行い、宗教行為によって天国に行ける人は、この世の中で一人もいません。だからこそ、救い主が必要なのです。罪人である私たちが全くできないので、救い主イエス・キリストが代わりに全部やって下さいました。イエス様が十字架で私たちの身代わりに死んで下さったことにより、私たちの罪は赦され、天国への道が開かれたのです。これが救いです。この救いみわざが完全に成し遂げられたので、イエス様は死ぬ直前に「完了した」と言ったのです。イエス様が全部 100% やって下さったので、私たちの側ですることは「何も」ありません。0%です。イエス様がして下さったことを、ただで受け取ること、信頼して心に受け入れること、それだけです。私たちはイエス様を信じる信仰によってのみ、救いを得ることができます。救いは神の恵みの賜物、プレゼントなのです。

## 6、 イエスはあなたのために、何をして下さいましたか？

## 第 22 章

### イエスはなぜ復活しましたか？（ヨハネ 20 章）

#### 1、 弟子たちはなぜ、聖書を理解していなかったのですか？

（ヨハネ 20：9）彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならないという聖書を、まだ理解していなかった。

（解説）イエス様はご自身が死んだ後よみがえることを、以前から前もって何回も弟子たちに話していました。弟子たちもイエス様の言ったことを、たくさん聞いて知っていました。でも実際に困難な状況に遭うと、そのみことばを全部忘れてしまいました。頭では知っていたけれど、本当には理解していなかったのです。イエス様のみことばよりも、実際の状況のほうを信じたのです。私たちも、口では「イエス様を信じます」と言っているけれども、困難や問題にぶつかったとき、聖書のみことばに拠り頼まないとしたら、聖書を理解していないのと同じです。困難によって、本当に信じているのかがテストされるのです。私たちは問題にぶつかったときにこそ、聖書のみことばを思い出して、それをもっと信じて拠り頼むようにしましょう。

#### 2、 マグダラのマリアは、なぜ泣いていたのですか？

（ヨハネ 20：14-15）彼女はこう言ってから、うしろを振り向いた。そして、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであることが分からなかった。イエスは彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」

（解説）マグダラのマリアは、イエス様の遺体を誰かが運び去って行ったと思ったので、泣いていました。主イエスはよみがえられて、今も生きておられて、彼女のすぐそばに共にいることを知りませんでした。私たちも、主イエスが復活して生きておられることを知らずに、マリアのように問題に直面して泣いていることがあります。そのようなときに、主イエスはあなたのそばに立って、こう言われるでしょう。

「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」私たちの主イエス様は、死からよみがえられた神、今も生きておられる神、問題の真ただ中であなたと共にいて救い出して下さる神です。

#### 3、 イエスは弟子たちになぜ、何度も「平安があるように」と言いましたか？

（ヨハネ 20：19-21）その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたにたにあるように。」こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたにたにあるように。父がわたしを遣わされたように、わた

しもあなたがたを遣わします。」

(解説) 弟子たちはそのとき、ユダヤ人を恐れて家に隠れていました。自分たちの主が死んでしまったと思っていたので、失望と不安、疑いの中にいました。心に平安が全然ありませんでした。だから主イエスは彼らを力づけるために「平安があるように」と何度も言ったのです。私たちも、心に平安がなかったら何もできません。イエス様だけが私たちに本当の平安を与えることができるお方です。平安さえあるなら、どんなに困難な状況の中にあっても、それを乗り越えることができます。弟子たちは復活した主を見て喜びました。その後から、彼らの人生は変わりました。平安と喜び、確信と勝利を得ました。聖霊の力によって「主イエスは復活した」と大胆に証しする人となったのです。

#### 4、 イエスはなぜ、戸が閉じられている所に入ることができましたか？

(ヨハネ 20 : 26) 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

(ルカ 24 : 36-40) これらのことを話していると、イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。彼らはおびえて震え上がり、幽霊を見ているのだと思った。そこで、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを抱くのですか。わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。幽霊なら肉や骨はありません。見て分かるように、わたしにはあります。」こう言って、イエスは彼らに手と足を見せられた。

(I コリント 15 : 42-44) 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

(解説) 主イエスが復活したからだは、幽霊ではありませんでした。触ることができて、肉や骨もありました。手には釘の跡、脇腹にも傷跡がありました。焼いた魚も食べました。しかし、以前のからだとは違いました。新しいからだ、天上のからだとなりました。だから、戸が閉められていたのに入ることができました。主イエスを信じる者も、主イエスの再臨のときには、そのような新しいからだで復活します。以前のからだのように病気にもかかりません。朽ちないからだ、栄光あるからだ、力あるからだ、御霊に属するからだとなるのです。この復活こそが、私たちの人生の希望です。もし死んだ後に復活がないとしたら、人生に意味がありません。「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」(I コリント 15 : 32) というような生活となってしまいます。もし復活がなければ、私たちの信仰は空しいものです。しかし、主イエスは死からよみがえりました。なので、私たちもよみがえります。(I コリント 15 : 20-23) 主イエスの復活は、主イエスを信じる者が永遠に生きることの「保証」です。私たちが信仰を持って、永遠のいのちを得るために、主イエスはよみがえられたのです。

## 5、 どういう者が幸いですか？

(ヨハネ 20 : 29) イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

(ヘブル 11 : 1) さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

(解説) イエス様を見ないで信じる人は幸いです。今日でも「神を見ないと信じない」と言っている、トマスのような人がたくさんいます。彼らは、主が下さる祝福を自分の目で見なければ信じないと言っています。しかし信仰とは、目に見えないものを確信させるものです。私たちは、まだ目に見えない復活、最終勝利、永遠の祝福を信じるからこそ、今でも十字架の道、苦しみの道を忍耐して歩むことができます。十字架の後には、必ず復活があります。そのような信仰を持っている人は、苦難や問題を乗り越えて勝利できます。人生の問題の中で一番大きな問題は、罪と死です。主イエスは復活によって、罪と死に勝利されました。人間に苦しみと呪いを与えるサタンにも勝利しました。だからイエス様は、人生の全ての問題を解決することができるお方です。その主イエスを信じて拠り頼む人は、主イエスと共に世に勝つのです。勝つ者とは「勝てる」と信じた者です。「勝つのは難しい」と信じている者は、戦う前からもうすでに負けているのです。私たちは主イエスを信じ頼って、最終勝利を獲得しましょう。見ないで信じる人は幸いです。

## 6、 この聖書は何のために書かれましたか？

(ヨハネ 20 : 31) これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

(解説) イエス様は救い主、神の御子であることを、あなたが信じて、あなたが永遠のいのちを得るために、この聖書は書かれました。聖書は「あなた」のために書かれたのです。他の目的のためではありません。どんなに聖書の内容を知っていても、自分自身が実際にやらなければ、全く無駄です。他の人のためではなくて、あなた自身が救いを得ることが重要です。あなたが信じて永遠のいのちを得るために、この聖書を読んで下さい。色々な奇跡の中で最大の奇跡は、主イエスの復活です。主イエスの復活を信じることができれば、聖書全部を信じることができます。主イエスの復活を信じた弟子たちは、人生が変えられて、その救いの福音を大胆に宣べ伝える者となりました。復活は「イエスは誰なのか」ということをはっきり現して、あなたが信じるためです。あなたも主イエスを信じれば、永遠のいのちを得て、主の復活を証しする者になるのです。

## 7、 あなたはイエスが復活して、今も生きておられると信じますか？

## 第 23 章

### 靈的回復（ヨハネ 21 章）

#### 1、 ペテロは、なぜ漁に行きましたか？

（ヨハネ 21：3）シモン・ペテロが彼らに「私は漁に行く」と言った。すると、彼らは「私たちも一緒に行く」と言った。彼らは出て行って、小舟に乗り込んだが、その夜は何も捕れなかった。

（解説）ペテロは失望し、落ち込み、靈的にダウンしていたので、昔していた仕事に戻りました。イエスに一生従うと決めていたのに、3回も否定してしまった、そんな自分を責めて、赦すことができませんでした。それで今から何をしたらよいか、分からなくなってしまいました。だから以前していたように、再び漁に行くことにしたのです。しかし一晩中働いても、一匹も捕れませんでした。主に仕える喜びを一度体験した者は、それを辞めて以前のように生活しても、満足できなくて、結局はうまくいかないのです。・・・私たちは皆、落ち込むことがあります。ダウンしたことがない人なんて、一人もいません。だからクリスチャン生活において、靈的回復は大切であり、必要なことなのです。

#### 2、 イエスはペテロに、なぜ「わたしを愛していますか」と質問しましたか？

（ヨハネ 21：15）彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたをご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」

（解説）イエスはペテロに「なぜわたしを否定したのか」とは一言も言いませんでした。ペテロの失敗を、もうとっくの前にすでに赦していたからです。それよりも、ペテロを再び立ち直らせることが、イエスの願いであり関心事でした。だから「わたしはあなたを今も愛している。あなたはわたしを今も愛しているか？」と言ったのです。私たちに對するイエスの愛は、永遠に変わることがありません！イエスの真実な愛だけが、私たちの人生を回復させます。あなたは、イエス様を今でも愛していますか？愛する心が少しでも残っているなら、主はあなたを回復させることができるのです。

#### 3、 ペテロは、なぜ「あなたをご存じです」と答えましたか？

（ヨハネ 21：15）彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たちが愛する以上に、わたしを愛していますか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。私があなただを愛していることは、あなたをご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの子羊を飼いなさい。」

(解説) 以前のペテロだったら、イエスの質問に対して自信満々に「はい、私はこの人たちが愛する以上に、あなたを愛します」と答えたでしょう。しかし今、イエスを3回否定した後では、全く自信を失っていました。また失敗するのでは、と恐れていました。しかしイエスを愛していないわけではありません。今でも、愛するのは愛しています。だから「私が」と言う代わりに「主が」ご存じです、と答えたのです。自分の力は、もう頼りになりません。しかし主の力は無限で、変わることはありません。ペテロは、その主の力を振り頼む者へと変えられました。私たちも「私」ではなく「主」を頼る者とならなければならないのです。

#### 4、 イエスは、なぜ3回も質問しましたか？

(ヨハネ 21 : 17) イエスは三度もペテロに、「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛していますか」と言われた。ペテロは、イエスが三度も「あなたはわたしを愛していますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。あなたは、私があなたを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。

(解説) イエスは、ペテロとの愛の関係をはっきり確認させるために、「わたしを愛していますか」と3回も質問しました。それでペテロは心を痛めました。なぜなら、自分がイエスを3回も否定したことを思い出したからです。自分が以前した罪を思い出すとき、私たちは高慢になることができません。神は高慢な者を用いることができません。イエスはペテロをへりくだらせるために、以前の罪を思い出させました。ペテロは回復した後で、どんなに神に用いられて有名になっても、高慢になりませんでした。「私は以前、主イエスを3回も否定した罪人だ」と思い出すとき、いつもへりくだりました。だからこそペテロは、人生の最期まで主に従い通すことができたのです。

#### 5、 「わたしの羊」とは誰のことですか？

(ヨハネ 21 : 17) イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。

(ルカ 22 : 32) しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

(I ペテロ 5 : 2-4) あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを牧しなさい。強制されてではなく、神に従って自発的に、また卑しい利得を求めてではなく、心を込めて世話をしなさい。割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。そうすれば、大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠をいただくことになります。

(解説) 「わたしの羊」とは、イエスの愛する弟子たち、イエスを信じる者たち、そしてこれからイエスを信じる多くの未信者たちのことです。落ち込んで何をしたらいいのか分からなくなっていたペテロに対して、イエスは使命を与えました。それは、イエスが愛するこの羊たちを飼うことです。どうやって飼うのでしょうか？人々を愛し、世話をすること、みことばの乳を与えて養い育てること、彼らのため

に祈り、慰め、励まし続けること・・・それが「羊を牧する」という意味です。ペテロは、この主から与えられた使命を、一生忘れませんでした。イエスが言った通りに、立ち直った後、兄弟たちを力づける者となりました。そして後に手紙の中で「神の羊の群れを牧しなさい」と書きました。大牧者であるイエスがしてくださったように、私たちも牧者となって、群れに仕えるのです。それが私たちの使命です。あなたは主イエスを愛していますか？愛するのなら、イエスの愛する羊たちを飼ってください。あなたにとって「わたしの羊」とは誰ですか？あなたの家族、教会の人々、学校の友達、職場の同僚・・・。彼らをイエスの愛で愛し仕えてください。それがイエスの愛に応えることなのです。

## 6、 私たちは、どのようにイエスに従うべきですか？

(ヨハネ 21：21-22) ペテロは彼を見て、「主よ、この人はどうなのですか」とイエスに言った。イエスはペテロに言われた。「わたしが来るときまで彼が生きるように、わたしが望んだとしても、あなたに何の関わりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

(解説) 私たちはよく「この人はどうなのですか」と言って、自分と他人を比べてしまいます。そんな私たちに対して、イエスはこう答えます。「それがあなたに何の関わりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」・・・他人と比較するとき、私たちは落ち込みます。他人が成功するか、悪いことをしているか、あなたとは何の関係もありません。主イエスとあなたとの関係、これが一番大切です。たった一度の人生、あなただけにしかできない特別な使命が、主から与えられています。あなたの使命は、何でしたか？その使命のために、人生をささげなさい。他のものを見ないで、その使命だけに集中しなさい。イエスの羊を牧して、人々に仕えなさい。そうするときに、あなたの人生は回復します。神はあなたを霊的に回復させ、あなたを通して神の栄光が現されるのです。ハレルヤ！！

## 7、 イエスはあなたを、どのように回復させて下さいますか？